日本大学薬学部校友会





46



8号館正面

メタボリックシンドロームの臨床検査値

文京学院大学保健医療技術学部教授 臨床検査学科長 芝 紀 代 子



はじめに

生活習慣病である高血圧症、糖尿病、 高脂血症は、脳卒中や心筋梗塞などの動 脈硬化性疾患の危険因子である。これま での単独の生活習慣病が重複して動脈硬

化を発症させるという新しい概念が生まれた。メタボリッ クシンドロームという概念で、内臓脂肪の蓄積と、それを 基盤としたインスリン抵抗性および糖代謝異常、脂質代謝 異常、高血圧を複数合併するマルチプルリスクファクター 症候群で、動脈硬化になりやすい病態と定義される。動脈 硬化性疾患の単独リスクを管理することより、それらの最 上流にある内臓脂肪の蓄積を是正することが重要課題であ ることから、予防医学を重要視する考え方である。

1. 肥満

生活習慣の揺らぎが引き金となり、最初に肥満が起こる。 肥満とは"過剰に脂肪組織が蓄積した病態"をさす。肥満 で問題になるのは肥満症である。肥満症と"肥満に起因な いし関連する健康障害を合併するが、臨床的にその合併症 が予測される場合で、臨床的に減量を必要とする病態"と 日本肥満学会で定義されている。肥満が起こると、ついで インスリン抵抗性が惹起され、その結果高血圧症、食後高 血糖、高脂血症といったメタボリックシンドロームの病態 がほぼ同じ時期におこってくる」。肥満の原因について過 食と運動不足への要因分解を行った試算を見てみると、日 本は過食要因の比率が50.1%なので、肥満の原因は過食と 運動不足が半々といえる②。

1) 肥満の判定3)4)

体脂肪率による判定:体脂肪とは体の中にある脂肪分の ことで、体の中にある体脂肪の量を体重で割ったものが、 体脂肪率 「体脂肪率 (%) = 体脂肪量 (kg) ÷ 体重 (kg) × 100] である。日本肥満学会では腹部X線-CT画像で100cm²以 上を内臓脂肪型肥満と判定している。2005年4月には、日 本肥満学会などの8学会によって「メタボリックシンドロ ームの定義と診断基準 | が共同策定され、公表された(表 1)。内臓脂肪面積が男女とも100cm²を表すとして男性85 cm、女性90cmとウエスト周囲径を用いている50。

表1 メタボリックシンドロームの診断基準

内臓脂肪	(腹腔内脂肪)蓄積
ウエスト周囲径	男性≧85cm
	女性≧90cm
(内臓脂肪面積	男女とも≧100cm²に相当)
上記に加え	以下のうち2項目以上
高トリグリセライド血症	≥150mg/dl
かつ/または	
低HDLコレステロール血症	症 <40mg/dl
	男女とも
収縮期血圧	≥130mmHg
かつ/または	
拡張期血圧	≧85mmHg
空腹時高血糖	≥110mg/dl
*CTスキャンなどで内臓脂質	量計測を行うことが望ましい。

- *ウエスト径は立位、軽呼気時、臍レベルで測定する。 脂肪蓄積が著明で臍が下方に偏位している場合は肋骨下縁と前上 腸骨棘の中点の高さで測定する。
- *メタボリックシンドロームと診断された場合、糖負荷試験が薦め られるが診断には必須ではない。 (文献5より引用)

2) アディポサイトカイン

内臓脂肪型肥満が生じると、脂肪細胞から種々な脂肪組 織由来内分泌因子が分泌され、総称してアディポサイトカ インと呼ばれている(図1)。そのひとつであるアディポネ

次 -

桜の木の下で	14
薬学部ニュース	16
平成17年度 薬学部校友会研究奨励金研究報告…	17
平成20年度日本大学薬学部入学試験期日及び科目	等18
日本大学・日本大学校友会ニュース	19
会合予告	22
会務報告	23
会費納入報告	25
平成19年度 通常総会・懇親会のお知らせ	26
▲主紅、宮吉 提製担託・完成した新 2 早館	

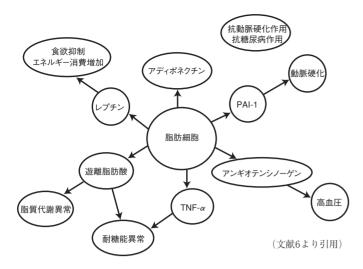


図1 脂肪細胞から分泌される牛理活性物質

クチンの血中濃度はBMIと逆相関し、内臓脂肪量の多いほど低値で、又冠動脈硬化を有する症例では低値であるところから、アディポネクチンは肥満に伴う動脈硬化性疾患に関与すると考えられている。血中アディポネクチン濃度が4.0 μ g/ml未満ではメタボリックシンドロームの頻度が増加し、冠動脈疾患のオッズ比が約2倍に増加する 60 。アディポサイトカインの主要な因子のレプチンは視床下部を介して強力な摂食抑制作用とエネルギー消費亢進作用をもたらし、肥満の制御と体重増加を抑制に関与していると考えられている(図2) 70 。血清や血漿中のレプチン濃度はRIA法あるいはEIA法により測定することが出来る。小川によると 80 非肥満男性 20 3.1 20 2.3 20 ml 、非肥満女性 20 7.9 20 ml

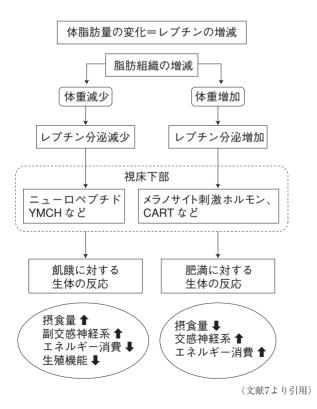


図2 レプチンによる体脂肪量の調節機構

で女性のほうが男性に比べ2倍程度高値である。肥満者において血中レプチン濃度は体脂肪量に比例する。肥満の原因はレプチンの分泌が低下してるのではなく、中枢あるいは末梢においてレプチン抵抗性が生じているためである。レプチンは肥満ややせの程度の判定や減量の経過観察に有用な臨床検査となるだろう。

2. 糖尿病

糖尿病患者はどこの国でも急増しており、我が国での糖尿病患者は約740万、予備軍的な人を合わせると1620万人と2002年に厚生労働省の糖尿病実態調査で分かった。日本の成人のうち2割近くに相当し、今後は更に増大することが懸念される。

糖尿病の発症要因として遺伝的要因と環境要因が挙げられるが、主に環境要因による。環境要因として挙げられるのが、食生活の欧米化と運動不足である。また食生活と共に短期間に急激な生活様式の変化はインスリン抵抗性の増大をきたしたとも推測されている⁹。又日本人のインスリン分泌能は欧米人の約5割程度であることが知られているが、そのために軽度な環境の負荷でインスリン分泌不全をきたしやすいのである。

1) 糖尿病とは

糖尿病とは膵ランゲルハンス島より分泌されているインスリンの作用不足によって高血糖状態が継続している状態をいう。平成11年5月に糖尿病の改訂診断基準成因分類案が決まった(表2)。それによると糖尿病は1型、2型に分け、その他の遺伝因子として遺伝子異常が同定されたものや、他の疾患などは別に分類され、新たに妊娠糖尿病の定義がなされた。

表 2 糖尿病、糖代謝異常の成因分類

- I. 1型 (β細胞の破壊、通常は絶対的インスリン欠乏に至る)
 - A. 自己免疫性
 - B. 突発性
- II. 2型(インスリン分泌低下を主体とするもの、インスリン抵抗性が主体で、それにインスリンの相対的不足を伴うものなどがある)
- Ⅲ. その他の特定の機序、疾患によるもの
 - A. 遺伝因子として遺伝子異常が固定されたもの
 - (1) 膵β細胞機能にかかわる遺伝子異常
 - (2) インスリン作用の伝達機構に関わる遺伝子異常
 - B. 他の疾患、条件に伴うもの
 - (1) 膵外分泌疾患
 - (2) 内分泌疾患
 - (3) 肝疾患
 - (4) 薬剤や化学物質によるもの
 - (5) 感染症
 - (6) 免疫機序によるまれな病態
 - (7) その他の遺伝的症候群で糖尿病を伴うことの多いもの
- Ⅳ. 妊娠糖尿病

(文献9より引用)

2) 糖尿病の診断基準

診断基準に関しても平成11年5月に定められた⁹。ここで新たに随時血糖値が加わったことと、空腹時血糖値が従来140mg/dlであったのが126mg/dlに下がったことである。診断基準によると1回の検査及び2回の検査で糖尿病と診断してよい場合に分けられ、それぞれの診断基準がある(表3)。正常型は空腹時値110mg/dl以下、75g経口糖負荷試験の2時間値が140mg/dl以下である。糖尿病型でも正常型でもないものを境界型といい、糖尿病特有の細小血管症の危険は乏しいが、動脈硬化症や糖尿病へ悪化する危険性は正常型よりも高いとされている。

表 3 糖尿病の診断基準

- A. 1回の検査で糖尿病と診断していい場合
 - - ——--・空腹時血糖≥126mg/dl
 - ・75 g 経口糖負荷試験の 2 時間値≥200mg/dl
 - →3項目のうちどれかがある
 - (2) 糖尿病特有の口渇、多飲、多尿、体重減少の症状がすでに確認
 - (3) HbA_{1c} 6.5%以上
 - (4) 糖尿病性網膜症の存在が認められた時
 - (1) の条件を満たし、かつ(2)(3)(4)のいずれかの条件が 満たされた場合
- B. 2回以上の検査で糖尿病と診断していい場合糖尿病の症状がない場合で
 - ・随時血糖値≥200mg/dl
 - ・空腹時血糖≥126mg/dl
 - ・75 g 経口糖負荷試験の 2 時間値≥200mg/dl
 - └→3 項目のいずれかの値が別の日に行っても再確認できる 場合

(文献9より引用)

3) 確定診断を要する検査10)

尿糖、血糖検査、グリコヘモグロビン、フルクトサミン、 グリコアルブミン、1,5-アンヒドログルシトール(1,5-AG) が挙げられる。

4) 病型の診断に必要な検査

インスリン分泌能の評価:内因性インスリン分泌能を推定するために血中のインスリンや血中及び尿中C-ペプチドを測定する。

75g経口糖負荷試験(Oral Glucose Tolerance Test, OGTT):グルコース75gを経口投与し、経時的(60分、120分)に血糖を測定する。人工的に高血糖状態を作り、これに対する耐糖能を通じて膵分泌機能を知ることができる。

抗GAD (グルタミン酸脱炭酸酵素glutamic acid decarboxylase) 抗体:GADは1型糖尿病の主要蛋白抗原で、その測定は、1型糖尿病の診断・予知の有力なマーカーとなる。

5) 合併症の診断と評価

糖尿病は合併症の病気といわれ、糖尿病の三大合併症として腎症、網膜症、末梢神経障害が挙げられるが、この基本的原因は持続する高血糖である。これら合併症を把握するための必須の検査を表4にあげた¹⁰。

表 4 糖尿病の合併症のための必須の検査

慢性合併症の 診断と評価		ĵ
	網 視力、眼圧 膜 前眼部検査 症 眼底検査	
	末 梢 自覚症状聴取 経 腱反射(膝蓋腱、アキレス腱) 環動覚 害	

(文献10より引用)

3. 高脂血症

1) 高脂血症とは11)

高脂血症とはコレステロール、トリグリセリド、リン脂質、遊離脂肪酸のうち、どれか一つ以上が増加している場合をいう。これら脂質のうち動脈硬化と関連する脂質はコレステロールとトリグリセリドである。

血中のコレステロールとトリグリセリドが上昇している 状態が動脈硬化の発症、進展と極めて深い関わりを持つた めに高脂血症が問題になる。

2) 高脂血症の診断基準

日本動脈硬化学会の中に作られた動脈硬化性疾患診療ガイドライン (2002年) 高脂血症の診断基準を定めた (表5)。またLDL-コレステロール値以外の主な危険因子の数により分けた6群の患者カテゴリーとその管理目標値を定めた (表6)。

表 5 高脂血症の診断基準(血清脂質値:空腹時採血)

高コレステロール血症	総コレステロール	≥220mg/dl
高LDLコレステロール血症	LDLコレステロール	≥140mg/dl
低HDLコレステロール血症	HDLコレステロール	< 40mg/dl
高トリグリセリド血症	トリグリセリド	≥150mg/dl

(日本動脈硬化学会動脈硬化症性疾患診療ガイドライン2002年版より抜粋)

3) 確定診断に要する検査12)

総コレステロール、トリグリセリド、HDLーコレステロール、LDL-コレステロールが挙げられる。

4) 病態把握のための検査

保険適用されている項目ではHDL-コレステロール、 LDL-コレステロール、リポ蛋白分画、アポ蛋白(A-I、A-II、B、C-II、C-III、E)、RLP(remnant like particle)、 LP(a)が挙げられる。

レムナント様リポ蛋白コレステロール(remnant-like lipoprotein choresterol)¹²⁾: レムナントリポ蛋白はアポE、アポCー皿およびコレステロールを多く含む。血中にはカイロミクロンレムナント及びVLDLレムナントが存在している。通常は速やかに代謝されるが、リポ蛋白リパーゼ活性の低下又は阻害、受容体への結合・取り込み阻害が起こると、血中にうっ滞、増加する。したがってレムナント様リポ蛋白コレステロールの蓄積が動脈硬化の原因になるとして測定されている。免疫吸着酵素法によって測定され

表 6 患者をLDLコレステロール値以外の主要冠危険因子の 数により分けた 6 群の患者カテゴリーと管理目標値

患者カテゴリー 脂			脂質管	脂質管理目標值(mg/dl)			その他の危険因子の管理		
		他の主要冠 危険因子**	TC	LDL-C	HDL-C	TG	高血圧	糖尿病	喫煙
Α		0	< 240	< 160					
В1		1	< 220	< 140			高血圧		
B2	なし	2	\ 22U	140	≥ 40	/ 150	学会の ガイドラ		禁煙
ВЗ		3	< 200	< 120	= 40	< 150	インに		赤圧
B4		4以上	\ 200	120			よる	よる	
С	あり		< 180	< 100					

TC:総コレステロール、LDL-C:LDL コレステロール、HDL-C:HDL コレステロール、TG:トリグリセリド

- *冠動脈疾患とは、確定診断された心筋梗塞、狭心症とする。
- ** LDL-C 以外の主要冠危険因子

加齢(男性≧45歳、女性≧55歳)、高血圧、糖尿病、喫煙、冠動脈疾患 の家族歴、低 HDL-C 血症(<40mg/dl)

- ・原則としてLDL-C値で評価し、TC値は参考値とする。
- ・脂質管理はまずライフスタイルの改善から始める。
- ・脳梗塞、閉塞性動脈硬化症の合併は B4 扱いとする。
- ・糖尿病があればほかに危険因子がなくとも B3 とする。
- ・家族性高コレステロール血症は別に考慮する。

(日本動脈硬化学会の動脈硬化性疾患診療ガイドライン2002年版より抜粋)

るが、基準範囲は2.2±0.1mg/dlである。高脂血症Ⅲ型、 V型、心筋梗塞、狭心症などの動脈硬化性疾患、糖尿病で 高値となる。レムナント様リポ蛋白コレスレロールは空腹 時よりも食後の方が動脈硬化危険因子としての感受性が増加するので、食後の測定が重要である。

4. 高血圧症

1) 高血圧症とは

高血圧症には原因がよく分からない本態性高血圧症と腎性高血圧、甲状腺機能亢進症など特定の病気によって引き起こされる二次性高血圧症がある。本態性高血圧症は高血圧症の8~9割を占める。二次性高血圧症は病気が治れば血圧は正常レベルに戻る。

2) 血圧の変動

血圧は1日のうちでもかなり大きく増減する。一番低いのは睡眠中で、朝起きると上昇し、昼間は最も高い。血圧は季節、精神状態、食物、体調など生活状態の変化によってすぐ変化してしまうので、病院でたまに測るだけでは血圧の平均値をとらえられない。白衣性高血圧といって病院で測ると家庭で測定するのに対し、5~10 mmHg高く出る人がいる。最近では医療機関での測定より家庭で毎日同じ時間に測定するほうが有効な結果を得ることが出来ると、

むしろ家庭での測定が勧められているい。

3) 血圧分類

WHO (世界保健機構) 及びISH (国際高血圧学会) の 血圧分類がある。140/90mmHg以上が高血圧である。正常 血圧も3段階に分けており、至適血圧120/80mmHg以下、正常血圧130/85mmHg以下、正常高値130~139/85~89 mmHgとしている。低血圧の定義はないが、一般的に最高 血圧が100mmHg未満の人が低血圧とみなされる。

4) 高血圧が引き起こす合併症

高血圧により血管壁に高い圧力がかかると細動脈壁が肥厚し、動脈硬化が進行する。高血圧が長く続くと脳、心臓、腎臓などの合併症が起こりやすくなる。140~159mmHgの軽症高血圧の人は至適血圧者の約3倍脳卒中による死亡率が高く、180mmHg以上の重症高血圧症は更に高く7倍以上である。

5) 初期診療のための検査14)

全身の、主に循環器系臓器障害の程度をスクリーニング するのが一般的な検査法である(表7)。

5. 非アルコール性脂肪性肝炎 (non alcoholic steatohepatitis, NASH)

1) NASHとは

1980年米国のMayoクリニックの病理学者Ludwingによって命名されたが、注目され始めたのは1998年以降である。アルコールを飲まないのに、アルコール性肝障害とよく似た肝臓の組織像を示す疾患である。脂肪肝の約10%がNASHであり、5年間で30~50%の人が肝硬変になる。NASHは症状がないまま肝硬変、肝癌へと進行する。非飲酒者や飲酒暦が乏しいにもかかわらず、脂肪肝を呈するものを非アルコール性脂肪性肝疾患(nonalcholic fatty liver disease; NAFLD)とし、非アルコール性脂肪肝とNASHが含まれる。NASHはNAFLDの約1割を占める 15 。

現在確立された治療法がなく、ビタミンCとEの併用が 有効とされている。

最近日本でも注目されてきた。生活習慣病危険因子の年代別の比較を行ったところ、1992年ごろから肝機能異常の人が高コレステロール血症、肥満を抜いて第1位になったことによる。

NASHは年齢45歳以上で2型糖尿病、高脂血症、高血圧症を持っている人が多いところから、メタボリックシンドロームの肝臓版として今後問題となるだろう。

表 7 DRG/PPSを考慮して高血圧症の初期診療に用いる検査項目

	検査領域	検 査 項 目	評価目的*	
	尿一般	一般(尿):糖、蛋白、潜血	糖尿病、腎障害	
	血液一般	WBC、RBC、Hb、Ht	貧血 (腎障害)、多血症	
血圧測定	血液生化学	グルコース、UN、クレアチニン、尿酸、LDL(HDL)	糖尿病、腎機能、痛風腎、動脈硬化、	
(高血圧) 血液生化学		コレステロール、トリグリセリド、Na、K	アルドステロン症	
	内分泌 レニン活性、アルドステロン濃度		二次性高血圧	
生理機能 心電図、眼底写真		心電図、眼底写真	心肥大、脳動脈硬化症	
	X 線検査	胸部X線写真(正面)	心肥大	

* これらの検査所見のみならず、治療抵抗性や治療の経過中に検査値に異常を生じて二次性高血圧症や新たな合併症が疑われる場合はその特異的検査に進む。

(文献14より引用)

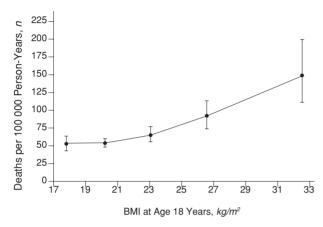
DRG/PPS: Diagnosis-Related Group/Prospective Payment System

2) NASHの診断基準¹⁶⁾

- ① 非飲酒者であること (エタノール換算で男性20g/日以下、女性15g/日以下)。
- ② 病理像で脂肪肝炎の所見(肝生検が必要)。
- ③ 他の肝障害の原因を認めない。

以上の①、③の条件といくつかの条件(AST、ALTの上昇がありAST優位、BMI 30以上、2型糖尿病の合併症、45歳以上、高脂血症、高血圧)を満たせば可能性が大きいが、最終的には肝生検で確認しなくてはならない。

図3 18歳時のBMIと12年追跡中の死亡率の関係



(文献117より引用)

おわりに

若いときの肥満も問題である。米国の女性1024.000人を対象とした大規模コンホート研究によると、18歳時に肥満の女性は若年死亡リスクが高いことを明らかとした研究が報告されている(図3) 17 。BMI 25Kg/ m^2 以上の思春期女性において原因別のハザート比(BMI $18.5\sim21.9$ Kg/ m^2 の思春期女性における若年死亡のハザート比を1とした場合)は、がん1.40、心血管疾患3.24、その他疾患2.13、外的要因1.83と高くなっていることが明らかとされた。もちろん人種差を考慮する必要はあるが、肥満に対するひとつの警告として受け止めるべきである。生涯を通じての健康管理の第一は肥満にならないように、適正な食生活と運動習慣を身につけるといった基本的な生活姿勢が最重要事項であることは言うまでもない。

参考文献

- 1) 伊藤裕:生活習慣病の新しいとらえ方 メタボリック ドミノ - 日本薬剤師会雑誌 5(4)417~423、2004
- 2) http://www2.ttcn.ne.jp/~honkawa/2240.html
- 3) 芝紀代子:生活習慣予防に使える検査器具 調剤と情報 8 (4)、517-521、2002
- 4) http://web-doctors.jp/sheets/002.html
- 5) http://zyloric.jp/metabolic/cont02/index.html
- 6) 朝川秀樹、徳永勝人:肥満のなにが問題なのか 体の 科学 24125-34, 2005
- 7) 蒲原聖可: なぜ肥満になるのか 体の科学241 35-39、 2005
- 8) 小川佳宏:レプチン 新しい臨床検査・未来の臨床検 査 検査と技術 増刊号34 (11) 1152-1153、2006
- 9) 芝紀代子:5. 糖尿病を検査する 現代科学と医療-疾 病と検査- 72-86 2004日本放送出版協会
- 10) 石井周一: DRG/PPS対応臨床検査のガイドライン2002 (第4次案) 24. 糖尿病; 103~107、平成14年5月発行
- 11) 芝紀代子: 4. 生活習慣病を検査する 現代科学と医療-疾と検査- 58-71 2004日本放送出版協会
- 12) 中谷矩章: DRG/PPS対応臨床検査のガイドライン2002 (第4次案) 25. 高脂血症; 108~111、平成14年5月発行
- 13) 多田紀夫: レムナント様リポ蛋白 (RLP) コレステロール 新しい臨床検査・未来の臨床検査 検査と技術 増刊号34 (11) 1142-1145、2006
- 14) 高橋伯夫: DRG/PPS対応臨床検査のガイドライン2002 (第4次案) 26.高血圧症; 108~111、平成14年5月発行
- 15) 兵庫秀幸: 非アルコール性脂肪性肝疾患―非アルコール性脂肪肝および非アルコール性脂肪性肝炎の早期診断健康管理と臨床検査―早期診断を目指して 宇宙堂八木書店、2005
- 16) 石田裕一郎:生活習慣と肝疾患 ふれあい50;12-13、 2006
- 17) van Dam RM et al: The relationship between overweight in adolescence and premature dealth in women 2006; 145 91-97 Ann Interm Med.

芝紀代子略歴

昭和38年3月 日本大学理工学部薬学科を卒業

昭和42年6月 東京医科歯科大学医学部付属病院検査部教官助手に 採用

昭和53年4月 同 講師

平成4年4月 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科助教授

平成12年6月 同 教授

平成13年4月 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授

平成16年4月~平成18年3月 保健衛生学科検査技術専攻主任

平成18年3月 定年退職

平成18年4月 文京学院大学保健医療技術学部教授 臨床検査学科 学科長

学位

昭和51年4月 医学博士(東京医科歯科大学)授与

賞罰

平成2年10月 第29回日本電気泳動学会児玉賞受賞

学会活動

日本電気泳動学会(常務理事)、日本臨床検査医学会(評議員)、日本臨床検査自動化学会(評議員)

日本臨床化学会(評議員)、日本唾液腺学会(評議員)日本臨床検 査同学院(理事)

著書

目で見る電気泳動法、健康食品総論など多数

薬学部から協力のお願いがありました

会長 山 内 盛

6年制薬学教育が始まって早くも1年が経過しました。これまでの会報でお知らせしましたが、学部長先生を初め多くの方から4年制教育との違いについての説明がありました。6年制教育の目的を結論から言いますと「臨床現場で役に立つ薬剤師を育てること」につきると思います。

薬学部からOSCE(客観的臨床能力試験)評価者への参加協力の依頼がありました。OSCE評価は学内教員と実務者の両面から行います。OSCEについては小野眞一先生の説明を読んで下さい。

母校薬学部では4年制の学生についても、3年次から OSCEトライアルを実施しております。昨年度の評価は千 葉県薬剤師会・千葉県病院薬剤師会・他薬科大学教員に協力していただきましたが、平成21年度になりますと評価者が不足することは明白です。評価者の能力が低ければ、評価される学生の質は低くなりますので、力のある学生を育て、社会に送り出す為には大勢の実務者が必要なのです。他薬科大学に負けない高レベルな評価者を自前で育てなければなりません。ここ2~3年のうちに高評価を受けれるように卒業生諸氏の協力をお願いします。初めは見学者としての参加でも構いません。

申込みは薬学部校友会事務局(TEL.&FAX.047-465-1478 又はE-Mail alumni@pha.nihon-u.ac.jp) までお願いします。

6年制教育におけるOSCEへの協力のお願い

OSCE検討委員会委員長 小野真一 (臨床医学ユニット)

共用試験 - OSCEとは何か

医療系学部は社会のニーズに合った医療人を輩出する社 会的責任がありますので、学部教育には医療に対する社会 のニーズを反映させることが必要不可欠です。従来、我が 国の臨床実習は見学型が中心でした。診療チームの一員と して診療参加型の臨床実習 (クリニカルクラークシップ) を 行っている米国と比べると、卒業生の臨床能力は雲泥の差 があります。さらに、患者とろくに話しも出来ない「医療 従事者の卵 | がどの医療系学部にも数%はいると言われて います。これらを改善すべく、実習の観点が「資格(免許)の 無い学生には医療行為を実施させない」から「医療行為を実 施できない学生には資格(免許)を与えない | に見直され るようになりました。この際、薬剤師法第19条の違法性阻 却の条件として、1)適切な知識と技能を有する、2)指導薬剤 師の指導・監督下になされる、3) 侵襲性の高くない行為に限 る、4) 患者の同意を得る、が求められます。すなわち、免 許を持たない学生が参加型実習をするに足る知識、態度、 技術を備えていることを社会に担保(総括的評価)するの が、共用試験です。自動車運転免許取得の際、路上教習を 行うために取得する仮免許に相当するものだとお考えくだ さい。知識はCBT (Computer-based Testing)、態度と技 能はOSCE (Objective Structured Clinical Examination) で評価します。医学部、歯学部では既に実施されており、 6年制薬学部では平成22年度から本実施の予定です。

どんなことをするのか

患者・来局者対応、薬剤の調整、調剤鑑査、無菌操作の 実践、情報の提供の5領域から選ばれた6課題(薬剤の調整 からは2課題)を、それぞれ5分間で実施します。課題を実 施する場所をステーションと呼んでいます。学生はステー



ションを順次移動し課題をこなします。その都度、2名の評価者から評価を受けます(写真参照)。

本学の現状

いち早く本実施を見据えたトライアルを実施しています。 平成18年度の4年生を対象に3回トライアルを実施致しました(平成18年2月(50名)、4月(142名)、7月(40名))。 平成19年度4年生対象のトライアルは2回行います。第1回は平成18年12月(134名)に終了致しました。2回目は残り約100名の学生を対象に、平成19年4月22日(日)に予定しております。さらに、平成20年度4年生対象のトライアルは平成19年12月16日(日)の予定です。学生からは「緊張するが良い経験になる。」と好評です。本学独自の工夫を凝らし、現在は、患者・来局者対応、処方鑑査、計数調剤、計量調剤の4課題で実施しておりますが、今後、順次6課題と致します。実施に当たっては、他の薬科大学・薬学部、実務実習をお引き受けいただいている病院、ならびに千葉県薬剤師会から、多くの方々に学外評価者としてご 協力をいただいております。また、患者・来局者対応と情報の提供のステーションでは、評価者以外に、模擬患者 (SP: standardized patients) が必要ですが、本学では地元の一般人の方にご協力いただいています。これも先駆的な取り組みです。

見学、そして評価者として参加のお願い

OSCEは1日で6課題を行いますが、1回に100名以上の学生を対象にしますので、1日規模となり多くの評価者が必要です。(最低限48名の評価者が必要です。午前、午後に分ければ96名!) 平成22年度からの本実施に向けて、トライアルを行なってまいりますが、千葉県内には多くの薬科大学・薬学部があり、評価者の不足が懸念されます。多く

のOBの方々に評価者としてご協力頂ければありがたいことと思います。桜薬会会員の皆様方、まずはOSCEをご見学頂き、次は評価者として、社会のニーズに合った医療従事者の輩出に一役買っていただけたらと思います。多くの会員の皆様方のご参加をお待ち申しあげております。

平成19年度 第2回OSCEトライアル

平成19年4月22日(日)(予定)

平成20年度 第1回OSCEトライアル

平成19年12月16日(日)(予定)

平成20年度 第2回OSCEトライアル

日時未定

公開シンポジウム

「医薬品の販売制度が変わる―医薬品(大衆薬)を選ぶ時、 一般市民・薬剤師はどうすれば良いのか―」

日本大学薬学部セルフメディケーション学ユニット教授 安川 憲

本学部と城西国際大学薬学部は、標記シンポジウムを平成19年2月24日(土)13時~17時に開催した。当日は晴天にも恵まれ多数の参加者を集め、安西偕二郎本学部長の開会の挨拶で幕を開けた。特別講演には、本学部薬理学研究室の前教授齋藤洋武蔵野大学薬学部長が、「医薬品の規制緩和から販売制度改定まで」の演題で、二回の医薬品規制緩和において厚労省検討会座長として携られた時の苦労話、平均寿命の推移を各国の販売制度と比較され、新販売制度の下では日本人の平均寿命が短縮するのではないかとの厳しい予言で締めくくられた。

シンポジウムでは、一般市民の立場から納得して医療を 選ぶ会代表の今井聡美氏が「新販売制度への市民の期待と 不安」の演題で、医薬品販売環境調査や薬剤師へのアンケート調査の実施データからドラッグストアーとそこで勤務 する人達への厳しい意見が述べられた。漢方薬剤師の立場 から「新制度における漢方薬の可能性と不安」では、金匱 会診療所とドラッグママダに勤務され漢方薬に造詣の深い 針ヶ谷哲也氏が、漢方薬の使用法の難しさから、新制度に おける登録販売者の資質に関して疑問が投げかけられた。 地域医療の立場からは、花巻市で東和薬局を開設しておられる武政文彦氏が「新制度における地域医療と薬剤師」の 演題で、地域医療では薬剤師は如何にあるべきかを講演された。総合討論では、シンポジストと特別講演者を交えて フロアとの間で熱心な討論が行われ、新制度における多く の問題点が浮き彫りにされた。その様な中で薬剤師として は、地域における医療人としてプロフェショナルで無ければならないという一つの結論に達した。最後に、城西国際 大学薬学部中島新一郎学部長の挨拶で締めくくられた。

本シンポジウムを開催に当たり、ポスターの作成、会場の設営・整理に当たられた城西国際大学薬学部事務の方々、懸川友人教授に感謝致します。当日の受付・写真等を担当して頂いた本学部濃沼政美、詫間浩樹両助手、ユニットのスタッフ・卒研生に感謝致します。当日の概要は、本ユニットHP(http://self-medication.pha.nihon-u.ac.jp/)にアップしています。



研究室はユニットに呼称が 変更されました

ユニットだより

生薬学ユニット (3号館2階322)

桜薬会会員の皆様方におかれましては、各方面で御活躍の こととお慶び申し上げます。

本研究室の近況についてご報告致します。現在、北中 進教授、松﨑桂一助教、大根谷章浩助教の3名で教育と研 究を担当しております。昨年度、卒業研究生は13名(実験 組12、演習組1)が配属となり、病院・薬局実習、就職活 動、国家試験対策等たいへん忙しい中、無事に卒業研究を 終了しました。うち1名が大学院に進学いたしました。博 士後期課程の李賀然君、博士前期課程の嶋田逸大君、賈榴 楠君、楊志剛君も癌、アレルギー、糖尿病をテーマに日夜 研究に励み、博士、修士の学位を取得するべくがんばって おります。研究成果は生薬学会や日本薬学会にて発表を行 ないました。また、学術論文への投稿、特許取得も精力的 に行ないました。

研究室旅行は栃木県の那須高原にて合宿を行ないました。 バーベキューなどを行い、互いの親睦を深めました。山に フィールドワークに出かけ、様々な高山植物も観察しまし た。普段、研究室では生薬を取り扱う機会は多いものの、 高山植物に触れる機会はなかなかありません。学生方にと っては一生、心に残る思い出となったことでしょう。

薬用植物園においては、遠藤豊氏が定年退職され、新た に本研究室OBである小村さんが本学植物園に職員として 加わりました。遠藤さんは長年にわたって、本学植物園を 管理され、薬学の発展に大変ご尽力されました。卒業生の 方の中には、この植物園で生きた薬用植物を始めて観察し たかたも大勢いらっしゃることでしょう。この場をおかり して、厚く御礼申しあげますと共に、今後ともご助言をお 願いいたします。さて、小村さんは、卒業後も生薬を扱っ ておられ、植物に関する知識がたいへん豊富な方です。そ の小村さんが新しく加わったことで、より一層、植物園の 活動を充実させる予定でおり、会員の皆様方の生涯教育の 場、交流の場として、ますます充実を図っていきたいと考 えております。

最後に、薬学部も6年制へ移行し、新設薬科大学の設置 増などで、ますます厳しさを増しております。総合大学で



あるメリットを活かし、社会のニーズにこたえる立派な医 療人の育成に励んでいく所存でございます。校友諸兄姉に おかれましては今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよ ろしくお願い申し上げます。 (大根谷 記)

薬品分析学ユニット | (3号館3階331)

桜薬会会員の皆様におかれましては益々御健勝のことと お慶び申し上げます。

薬品分析学ユニットの近況をお知らせ致します。六年制 教育がスタートし早いもので二年目を迎えましたが、当ユ ニットでは現在、教員4名(内倉教授、四宮准教授、木村准 教授、古谷)で日々薬学教育・研究に励んでおります。大 学院生及び学生の近況ですが、今年3月に医療薬学社会人 コースの小林直子さん、医療薬学コースの多喜しをりさん、 薬学コースの野伏康仁君、林智久君の4名が博士前期課程 を無事修了しました。2年間精一杯研究に勤しみ、研究成 果を日本薬学会第127年会で発表し、病院や企業、進学な どそれぞれの道に巣立っていきました。今頃は大学院で培 った経験を活かして頑張っていることと思います。現在は 博士後期課程2年生2名、1年生2名が在籍しており、新た な顔ぶれでまた研究に励んで参りたく存じます。

昨年度の卒業研究生は13名(実験組10名、演習組3名)が配 属され、日々熱心に卒業研究に取り組んでいました。実験 組は女子が9名、男子が1名と女子率が高く大変賑やかな毎 日でした。卒業論文も無事提出し、卒業研究を通して仲良 くなった仲間と励ましあいながら総合講義試験(卒業試験) 及び国家試験を乗り切っている様子でした。また、毎年恒 例の卒研旅行ですが、昨年は9月17、18日に群馬県の水上 を訪れ、初日はラフティングで盛り上がり、二日目は陶芸 や藍染め、ガラス細工などそれぞれ個性的なものを作りま した。また、そば打ちやこんにゃく作りの作業を皆で取り組 むことでより親睦が深まり、大変楽しい旅行となりました。

新年度の卒業研究生は15名(男子11名、女子4名)が新た に配属され、昨年と異なり男子が多く、新たな雰囲気にな りそうです。薬学教育の発展に必要不可欠な先輩諸氏の御 指導御鞭撻を賜りつつ、邁進して参りたく存じます。

最後になりましたが、会員の皆様の御健康と御活躍をお 祈り申し上げます。 (古谷記)

有機化学ユニット

(3号館3階332)

桜薬会会員の皆様には益々御健勝のこととお慶び申し上 げます。有機化学ユニットの近況をお知らせ致します。

平成18年度の卒研生は16名 (男性5名、女性11名) が配 属となりました。実験を始めた当初は、英字文献を読むの がたどたどしく、恐る恐るピペットを操作していました。 しかし、時を重ねるに連れてどんどん知識を吸収し、実験 の進め方の提案をしてくれることも頻繁にあり、学生が成 長する姿を頼もしく感じました。そして、その努力の成果 を卒業論文という形でまとめることができました。毎年恒例の卒業研究旅行は、昨年8月5日から6日にかけて千葉県東部の横川光町に行きました。

自然の中で運動をしたあとのバーベキューの味は格別でした。また、津田沼に帰着してからボーリングなどを通じて、互いに親睦を深めることができました。

大学院生は、今年3月に建川一郎君が「イサチンとその代謝産物の高感度分析のための新規蛍光誘導体化剤の開発」というタイトルで修士論文にまとめることができました。研究室内に同級生がいない中、研究室のまとめ役として積極的に動いてくれました。今後、社会に出てからの活躍が期待されます。博士前期課程2年に在籍している岡部絢一君は蛍光標識糖に関する研究に取り組んでおり、夜遅くまで精力的に実験を行っています。二人とも一年生を対象とした創薬化学系実習でティーチングアシスタントを務めてくれました。学生からの質問に対して丁寧に答えている姿が大変印象に残りました。

今年度は15名(男性3名、女性12名)の卒研生が新たに 配属されました。昨年末の飲み会で既に一丸になりつつあ り、これから一緒に研究をするのが楽しみです。

ご承知の通り、薬学部は昨年度から6年制へ移行し、薬 学教育および研究の両面において揺籃期を迎えております。 会員の皆様方には今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお 願い致します。

最後になりましたが、会員皆様の益々の御健勝と御多幸 をお祈り申し上げます。 (齋藤 記)

薬品分子化学ユニット (3号館3階334)

美しく咲き揃ったチューリップに柔らかい小糠雨が降っています。桜薬会会員の皆様におかれましては、益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。早速ですが薬品分子化学ユニットの近況を御知らせ致します。

昨年度、当ユニットには卒業研究生が男子6人、女子7人 が配属されました。皆、個性派ぞろいと申しましょうか、 非常にユニークで活発的、また互いを思いやる気持ちを持 った素晴らしい卒研生でした。その為、ユニット全体の雰 囲気も大変よく、春のスポーツ大会、秋の文化祭ではユニ ットが一丸となってソフトボール大会に参加しました。結 果はどちらも初戦敗退でしたが、それよりもみんなでこれ からも頑張っていこうという結束が深まり、勝利する事よ りももっと大事なものを得たと思います。夏には卒業研究 旅行と銘を打って、九十九里浜に行きました。みんなでテ ニスをし、夜はバーベキューを行い、海岸で花火、宿舎に 戻ってから夜が明けるまでの懇親会と楽しい時間を過ごさ せていただきました。また、本年度は理工学部・物質応用 化学科から外部卒業研究生を2名(男子1名、女子1名)招 き入れ、当ユニットの卒業研究生たちと一緒に研究に没頭 し、互いに高めあう素晴らしい関係を築き上げてくれまし た。そのように明るかった卒業研究生が今では、総合講義 試験及び国家試験に向けて皆、一心不乱に頑張っておりま す。このまま全員が無事に卒業し、晴れて国家試験に合格 して社会に出られる事を薬品分子化学ユニット一同祈るば かりです。卒業後の進路は大学院(当ユニット)、調剤薬局、 病院そして企業と様々ですが、皆、希望した進路に決定し、 今後は校友会諸兄姉のお世話になることも多くなると思い ますが、ご指導ご鞭撻の程よろしく御願い申し上げます。

平成18年度から薬学部6年制が始まり、校舎も新2号館、8号館の建設と大学の設備も拡充され、薬学部発足当時の面影が少しずつ薄らぐ一方、次の世代に対する教育の新たな息吹を感じさせます。お近くにお越しの際は是非、お寄り下さい。

平成19年度は、昨年度と同様に理工学部・物質応用化学科から2名、卒業研究生が12人(男子5人、女子7人)、新大学院生が2名と計14名で当ユニットは動く事になりました。昨年度と同様に人数も多く、また大学院生が加わる事によってより一層の研究成果が期待でき、いまからユニットー同楽しみにしています。

最後になりましたが、会員皆様のご健勝と益々のご発展 を心よりお祈りいたします。 (記 三浦)

|薬剤学ユニット| (3号館4階341)

桜薬会会員の皆様には多方面で益々ご活躍のこととお慶 び申し上げます。伴野和夫教授を中心とした新体制が2003 年にスタートし、この春で早くも5年目を迎えようとして おります。薬剤学ユニットでは、現在スタッフ4名が一致 団結して教育に臨み、薬剤学領域を多角的にリードするた めの研究に励んでおります。伴野和夫教授は、昨年8月に 留学先であった米国オハイオ州立大学薬学部とカンサス大 学に約1ヶ月間表敬訪問され、日本の薬学教育6年制が抱 える諸問題について討論されてきました。深水啓朗助手は、 製薬企業3社から製剤部門の若手研究者を対象にして講演 を依頼されるなど、教育・研究はもとより社会的活動の場 が以前にも増してきております。古石誉之助手は、赴任後 に着手された経皮呼吸に関する特許出願に対して、国内外 の幾つかの製薬企業からの相次ぐ問い合わせに嬉しい悲鳴 をあげており、今後益々の研究の進展が注目されるところ です。私(鈴木)は上述した3人の色々な角度からの刺激 を受けながら、教育・研究に対して柔軟に取り組めるバラ ンス感覚を習得する難しさを実感しております。

3月に博士前期課程を修了した石井達弥君と伊尾岳君は、2年間の毎週月曜日の定例セミナーで論文紹介や研究報告で鍛え抜かれたようで、学会等での堂々とした発表と質疑応答には眼を見張る成長ぶりが随所に見られました。社会人コースの猿田紀子さんも、仕事の合間を見つけて研究室に足を運び、無事に前期課程を修了することができました。日大板橋病院との共同研究(薬物の分子間相互作用)で梅田忠子先生(同薬剤部)が東京医科歯科大学との共同研究(新規軟膏製剤の開発)で小林英文先生(同薬剤部)が休日を返上して実験に取り組んでいます。小川俊君と宮田真理子さんは、この春から新たに迎え入れる大学院生4名(男性3名、女性1名)の先輩(M2)として期待されております。春からさらに活気が満ちてきており、今まで以上に研究体制も充実してくることになるでしょう。

さて、2006年度の卒業研究生は14名(男性5名,女性9名)配属でした。恒例となっていた夏の卒研旅行では、群馬の水上温泉地(写真)で壮大な自然を満喫してきまし



た。ラフティングに続くバーベキューで最高潮に達した盛 り上がりとは対照的に、帰路の途中ではいつの間にか会話 も途絶え熟睡している人がほとんどでした。学生達は、卒 業研究の合間をぬって国試の模擬試験の勉強、卒業研究発 表会の準備と卒業論文の作成を終えて、息つく間もなく卒 業試験および国家試験対策に向けて大変忙しく充実した 日々を送ったことでしょう。

大学院生も含め卒研生の多くは、病院への就職を希望し ております。引き続き諸先輩方のお力添えをいただけます ようよろしくお願い申し上げます。末筆ながら、皆様方の 一層のご健勝とご活躍をお祈りいたしております。

(鈴木 記)

薬品物理化学ユニット (3号館4階342)

桜薬会の皆様におかれましては各方面で益々ご活躍のこ ととお慶び申し上げます。

初めに薬品物理化学ユニットの近況をお知らせいたしま す。小川尚武先生が、平成18年3月をもって定年を迎えら れました。先生は、昭和63年4月に熊本大学薬学部より当 研究室にご着任され、永きにわたり薬学部の発展のために ご尽力されてきました。小川先生の永年のご指導に感謝す るとともに益々のご発展とご多幸をお祈りします。そして、 4月からは齋藤好廣助教授が教授、田口博之助手が専任講 師に昇格されました。現在は、齋藤教授、田口専任講師、 橋崎の教員3名で、一同気持ちを新たに教育と研究に励ん でおります。大学院生は、博士前期課程を修了した井上元 基君が博士後期課程、玉木奈緒さんが博士前期課程に進学 し、それぞれの研究テーマについて夜遅くまで精力的に実 験を行っています。また、博士前期課程2年の藤本健太郎 君も修士論文「シクロデキストリンを乳化剤として用いた 乳剤性基剤の調製と製剤への応用」の完成に向けてラスト スパートをかけています。

本年度の卒業研究生は16名 (男性7名、女性9名) が配 属となりましたが、それぞれ充実した卒業研究を終え、現 在は総合講義試験および薬剤師国家試験に向けて勉強に忙 しい日々を送っている様子です。国家試験までは気を抜か ないよう頑張って、全員そろって卒業できることを願うば かりです。また、来年度は新たに博士前期課程1名と12名 の卒業研究生が配属になる予定です。明るく楽しいユニッ トになることを期待しています。

薬学6年制がスタートし、まさに激動の時代を迎えてい

ますが、会員の皆様方には今後ともご指導、ご鞭撻のほど 官しくお願いいたします。最後になりましたが、皆様の 益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。(橋崎 記)

物理学ユニット | (3号館4階344)

新緑がまぶしい春を迎え、心身ともに快適な候となりま した。桜薬会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄の こととお慶び申し上げます。ご無沙汰しておりますが、大 島久教授をはじめ研究室員一同元気に教育・研究に励んで おります。

さて、研究室の近況ですが、平成18年度は7名の卒研生 が配属され、卒業研究期間は研究室内に活気が漲っており ました。9月には箱根園へ研究室全員で1泊2日の卒研旅行 に行って参りました。箱根湯本駅よりバスを乗り継ぎ、最 後は芦ノ湖岬を2km程散策して目的地に到着しました。到 着後は、皆旅の疲れも見せずテニスを行いました。また、 宿はコテージになっており、学生達は隣を気にすることな く夜遅くまで騒いでいたようです。翌日は海賊船に乗って の芦ノ湖観光後、大涌谷で景色を楽しみ、小田原で個性豊 かなかまぼこ作りを体験するなど実りの多い旅行になりま した。平成18年度の卒業研究は、「二次元バーコードを利 用した投薬管理システムに関する研究」と「保険薬局で行 われた疑義照会の分析と経済効果について」の2つの新し いテーマについて行いました。いずれのテーマの卒研生も パソコンを前に悪戦苦闘の日々を送っておりましたが、何 とか卒業論文を提出することが出来ました。現在は国家試 験に向けての勉強に専念しております。4月には社会人と してそれぞれ各地の薬局や病院に巣立って行く予定です。

薬学教育も6年制の2年目となり、新旧のカリキュラムが 混在するなか、教員一同戸惑いながらも一歩一歩着実に前 進して行きたいと考えております。薬学をとりまく環境も 激動の時代ですが、校友諸兄姉におかれましては今後とも ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

最後になりましたが、会員皆様の益々の御健勝と御多幸 をお祈り申し上げます。 (小林 記)

臨床薬剤学ユニット|(3号館4階345)

桜薬会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこと とお慶び申し上げます。

臨床薬剤学ユニットの様子を報告させていただきます。 4月から青山隆彦助手が加わり教員4名、大学院博士後期 過程2名 (男子1名、女子1名)、卒業研究生13名 (男子7名、 女子6名)、研究員6名、研究生5名で教育、研究活動を行 なってきました。4年生は無事卒業論文の提出、総合講義 を終了し、卒業試験、国家試験に向けて頑張っています。 4年生の進路は、大学院進学5名(本学4名、山梨大学医学 部1名)、大学附属病院薬剤部2名、病院薬局2名、調剤薬 局4名となっています。卒業後は、素晴らしい薬剤師にな ることを確信しています。

5月には職員、学生、院生、研究生、総勢12名で第3回 臨床薬物動態解析セミナーを軽井沢研修所で行ないました。 新緑の軽井沢は非常に美しく、緑の色がこんなに透き通っ

ているのかと感激し、薬物動態の基礎を勉強しました。

速度=クリアランス×濃度から始まり、薬物動態の計算 に必要な20の式から復習してもらいました。10月には研究 員、研究生、院生を中心に第4回臨床薬物動態解析セミナ ーを軽井沢研修所において行ないました。メーカー、病院 薬剤部からの参加で、総勢15名で行ないました。内容は1) Bayesian推定について。2) American College of Clinical Pharmacology 2006 Annual Meeting, Pharmacokinetic and Pharmacodynamic Modeling course について。3) Win BUGS入門 - PKBugsを中心に-。4) NONMEM 解析に おける重みつき残差について討議しました。内容は非常に 高度ですが、有意義なものになったと思います。9月のユ ニット旅行では、熱川のバナナワニ園に行き、様々な種類 のワニと食虫植物の見学をしました。不遇なワニをはげま している優しい学生がいたのには感激しました。11月には 4年生と、卒業論文終了と国家試験勉強突入としてのロブ スターパーティーを行い、楽しい思い出を作りました。12 月には3年生のユニット配属が決定しました。19年度は新 たに15名 (男子9名、女子6名) の学生がユニットに来て いただけることになりました。

今後ユニットでは、薬物動態に基づく医薬品適正使用、TDM、薬物動態/薬効解析などを特技とする学生、院生を育てて行きたいと考えています。研究内容に関しては日本大学薬学部研究紀要第45巻をごらん頂ければ幸いです。春休みからは、3年生全員で英語を読み、薬物動態などになれていただければと思っています。今後も勉強会、セミナーを企画して行きたいと考えています。桜薬会会員の先生方の参加も歓迎します。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご活躍をお 祈り申し上げます。 (松本 記)

実験動物センター (4号館1階411)

実験動物センターは、平成12年3月に増築部分が完成し、 同年9月に既存施設の改修工事が完了しました。

当センターは、空気清浄度の高い順に3階SPF区域(特定の病原体を保有しない動物),2階クリーン区域(SPF動物に準じた動物)、1階再搬入区域(通常の動物)に分かれ、動物飼育室16室と実験室7室があります。増築部分の地下1階は排水処理施設があり、1階には管理室,動物受入室、ロータリー式ケージ洗浄機や大型の滅菌機が設置された中央洗浄室等があり、4階は空調機械室となっています。飼育されている動物は、マウス、ラット、モルモット、ウサギ、両生動物,魚類です。各飼育室は、年間を通じて一定の温度、湿度に保たれ、照明も自動制御となっております。

利用者には所定の講習会受講後、入退室を管理するID カードが発行されます。この講習会では、動物に影響があ る病原体の侵入を防ぐための帽子、マスク、専用衣の着用、 履物の交換などの入室方法や各種制限の説明があります。

利用者には的確な利用方法が求められますが、整えられた環境、設備の中で実験を行うことができます。平成18年度利用者として170名(教職員等35名、研究生等6名、大学院生56名、学部4年生73名)の登録がありました。

管理・飼育に関する実務は、浅倉技手及び外部専門業者

が担当しております。また、毎年、実験動物慰霊祭を執り 行っております。 (浅倉 記)

アイソトープセンター (4号館1階412)

薬学及び関連領域の教育及び研究で、ラジオアイソトープを用いる際の共同利用研究施設として、文部科学省の許可を受けて昭和63年に薬学部校舎4号館に設置されました。施設の安全管理は、薬学部放射線障害防止委員会(委員長手塚雅勝教授)が担当しております。

放射線取扱主任者には、平成18年3月に薬品物理化学ユニットの田口博之専任講師(34期)が新たに選任され、主任者と管理実務を担当している井熊(26期)と共にその任務にあたっています。

施設では、トレーサー実験に³H, ¹⁴C, ³²P等が主に使用され、多くの研究成果をあげています。なお、平成18年度の放射線業務従事者登録者は117名(教員:34職員:1,大学院生:33,学部4年生:49)でした。 (井熊 記)

分析センター (4号館2階421)

薬学部分析センターでは400MHz、500MHzの2台のFT-NMR装置、高分解能質量分析装置(MS)は卓上型二重収束質量分析装置とGC-MS測定にAUTO-MS装置がフル稼働しています。創設時に設置された大型高分解能質量分析装置の後継機器の早急な設置を継続申請中です。ほかにATR測定用加温装置を装備する赤外分光光度計(IR),元素分析装置、アミノ酸分析計、プロテインシーケンサー、円二色性分散計、走査電子顕微鏡、透過電子顕微鏡、共焦点レーザースキャン顕微鏡(LSM)の12機種が設置されています。構造決定に必須のNMR、MS、IRを利用した学術論文は年20報を越え、近年、LSMが生物系の教員、院生の研究に大いに活用され、共焦点レーザースキャン顕微鏡写真が掲載された学術論文も多く出るようになりました。

薬剤師国家試験にNMR、MS、IRスペクトルの問題が出題されるようになり、分析センターの装置は講義資料や試験問題作成にも大いに活用されています。 18年度からユニット制に伴い、薬品分析学ユニット所属となり、3年生の薬品化学実習も分担し、目鳥技手にもMS測定のデモンステレーションをしてもらいました。

1999年に生化学研究室から移籍した目鳥幸一技手も土曜休みを返上して年間1000件におよぶ質量分析の依頼測定に励んでくれる一方、本年3月にコールドスプレーイオン化法MS測定で千葉大分析センター在職時からご指導いただいていた山口健太郎教授のもと、徳島文理大香川薬学部で「質量分析法によるシクロファン包接錯体に関する研究」で論文博士第1号を授与されました。

19年度は5月24、25日に日大会館で開催される日本分析 化学会有機微量分析研究懇談会シンポジウム実行委員長と して、目鳥技手も実行委員として準備に追われています。有 機微量分析に関られている卒業生の皆様の参加をお待ちして います。http://www.apchem.metro-u.ac.jp/microganic/

卒業生各位におかれまして、薬学部分析センターをご利用されたい方は卒業研究室 (ユニット)あるいは分析センタ

(木村 記)

社会学ユニット (5号館4階544)

GISを御存知ですか? "地理情報システム" と言います。 簡単には、地図の上に各種情報を貼り付けた主題図なので すが、これでは、従来からの紙地図と同じです。

GISはパソコン上のデジタル地図を利用した主題図なのです。地図に位置情報(東経何度・北緯何度とかです)を持たせ、その位置に必要な情報を埋め込んでおき、パソコンのマウスやキー操作により、利用者が必要とする画面上に表示されている地図の位置にある情報を検索することが出来ます。

例えば、ある地域の地図が表示されているとして、その地図の任意の地点をクリックすると、病院・薬局などの写真やイラストが出てきます。それをまたクリックすると、病院の所在地・電話番号、開院時間、診療内容などの情報が、別のウインドウで表示されます。また、検索項目(例えば、自宅から半径500m、小児科など)を入力してから、自宅の上をクリックすると、必要な病院がどこにあるかと言うことも表示することが出来ます。

GISはWeb上のホームページでも各種紹介され、無料のGISソフトもダウンロードできます。参考書籍も多く出版されていますから、是非、GISの構築・利用などされてみては如何でしょうか。 (伊藤 記)

卒後教育講座のご案内

◎第109回

日時:平成19年5月10日(木)18時より

演題:「調剤事故の当事者にならないために今、直ちに

実行すること」

演者:日本大学薬学部 教授 中村 均先生

薬剤師は医療におけるセーフティマネージャーとして、重要な役割を担っている。しかし、薬剤師が当事者となる重大な調剤過誤が後を絶たない。特に、散剤の計量調剤での過誤が約半数を占めている(保険薬局における調剤事故防止対策に関する研究、日本薬剤師会、平成15年3月)。本講座では、散剤の調剤を中心に薬剤師の本務である調剤を改めて考え、また、日常の調剤業務を見直し、調剤過誤の当事者にならないための方策を考える。

当番ユニット:環境衛生学(山中健三、立川真理子、加藤孝一、溝井睦美)、微生物学(井口法男、小林弘子、板垣 正、元吉尚美)

◎第110回

日時:平成19年7月12日(木)18時より

演題:「ジェネリック医薬品における薬剤師の役割」

演者:聖マリアンナ医科大学病院 薬剤部長

增原慶壮 先生

医療現場においても財源・資源をより効率よく使用することが求められており、ジェネリック医薬品の有効利用は社会からのニーズでもある。客観的な医薬品の品質の評価や適正使用情報の構築と、ジェネリック医薬品の有効利用に薬剤師の積極的な参画・貢献が求められてい

る。ジェネリック医薬品に関する疑問点・問題点につい て講演していただきます。

当番ユニット:臨床薬剤学(松本宜明、九川文彦、小山 由美、青山隆彦)、機能形態学(草間 貞、木澤靖夫、 益子 崇、齋藤清茂)

◎第111回

日時:平成19年9月13日(木)18時より

演題・演者:未定

当番ユニット:分子細胞生物学(小川吉夫、草間國子、 須田篤博)、薬事管理学(白神 誠、泉澤 恵、詫間浩 樹)、健康・スポーツ科学(松原 茂、西川絵梨子)

◎受講案内

会場:日本大学会館(千代田区九段下南4-8-24)

最寄り駅:市ヶ谷駅 JR中央線下車 徒歩2分

東京メトロ 有楽町線・南北線、都営地下鉄線下車 A2

出口 徒歩0分

受講申込方法: 当日申込のみ(予約不要)

受付開始時間:17時30分より

参加資格:特になし(出身校等一切不問)

受講料等:1,000円

受講者には受講証と受講資料を差し上げます。日本薬剤師研修センター研修シール(1単位)を交付いたします。

問い合わせ先 日本大学薬学部庶務課 Phone 047-465-2091

現在、講座の開催日時が教授会と重なる日が出ており、第2週の木曜日から第4週に変える、曜日を変える等の検討を行っています。委員会では、受講者の皆様のご意見を尊重したいと考えています。是非とも忌憚の無いご意見を下さいます様、お願い申し上げます。また、各方面でご活躍の方々の講演を企画していますが、ご希望の講演内容が御座いましたら、お気軽にご連絡頂ければ幸いです。有意義な講座にしていきたく、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

薬学卒後教育委員会委員長 安川 急

連絡先: self-med@pha.nihon-u.ac.jp

(迷惑メール防止のため@は、全角で表示しています。)

桜の木の下で

第6期卒業45周年クラス会



平成18年11月18日 (土) 日比谷「うすけぼ」にて第六期のクラス会を開催しました。

今回のクラス会は卒業45周年ということで、澤村良二先生、滝戸道夫先生、杉井篤先生をはじめ、直接実習の指導をいただいた小山隆先生、宮尾利政先生、高仲正先生、そして山内盛 薬学部校友会会長をお迎えし、又同級生の出席は36名で恩師の先生方を囲み盛大なお祝いの会となりました。当日は天気も良く、北は北海道の松井(樋浦)孝子

さん、新潟から鈴木保行君、島根から景山(石黒)洋子さん、愛知からは羽田勝行君が駆けつけてくれ会を盛り上げてくれました。二次会は銀座のクラブ「南蛮」に場所を移し高仲、山内、両先生にも出席をいただき総勢23名が集い、又違った雰囲気の中で談笑しました。二次会終了後も去りがたい仲間が10数名いましたので、喫茶ルームでコーヒーを飲んで次回の再会を約束して散会しました。

(撮影:渋江洋介 文責:前田敏晴)

第7期同窓会報告



平成18年10月29日-30日、第7期同窓会が行われました。第一日目夕刻、山の上ホテルに32名が集い、パーティーは山内桜薬会会長を囲んでの記念撮影から始まりました。久しぶりに遠方から参加した札幌の町田實君、博多の島田恵美子さんをはじめ岡山の中野和子さん、神戸の梅本

準治君、富山の高田十三男君、豊田の安田園子さんらの近況を伺いながら話が盛り上がります。さらに、9月末に肺の手術を受けたにもかかわらず、元気いっぱいの宮川孝君恒例の健康講話や、伊豆在住の今井康雄君が実行委員長となり10月に伊東市で行ったフラダンス大会の紹介など話題

は尽きません。話の続きは同ホテル地下のワイン酒蔵に移りました。また、都内在住の仲間も加わり18名が同ホテルに宿泊し、夜10時に多くの文筆家に愛用されているホテル推奨の庭園付きスイートルームに全員が集合し、持参のワインや島田さん提供の黒糖焼酎を囲みながら、話は深夜におよびました。

秋晴れの二日目、ホテルを起点にして14名が新しく模様替えをしたガラス張りの理工学部本館を訪問しました。1階フロアに保存されている旧本館の正門の前に立つと、懐かしさと時の流れを実感します。さらにニコライ堂、湯島聖堂、神田明神を散策後、新橋に移動し、日の出桟橋からシンホニー東京湾クルーズに参加しました。海上から変わ

り行く東京を眺めながら味わうランチバイキングは新鮮な体験でした。途中、携帯が響き、北海道からお孫さん誕生の知らせが届いた町田君の嬉しそうな笑顔が印象的でした。クルーズ後、お台場に向かい、自由の女神やレインボーブリッジ、東京タワーを眺めつつ、海の見えるテラスで仲間と飲むコーヒーも格別です。16時過ぎ、新橋に戻る頃"おのぼりさん"気分も雑踏に消え、再会を期してのフィナーレとなりました。

次会、平成19年は卒後45周年になります。より多くの 方々とお逢いできることを楽しみにしております。

(代表幹事 藤原充雄)

日本大学薬学部校友会新潟県支部総会・懇親会開催

平成18年9月23日長岡市において校友会本部より、山内 盛会長、内倉和雄副会長におこしいただき、県内各地から 34人の会員が集まり5年ぶりで総会を開催しました。

五十嵐明氏の司会で議長には小林公夫氏を指名し総会が始まり、新沢彰支部長が挨拶のあと、山内会長から校友会の動きそれから内倉副会長には大学の最新情報をお聞きして、一気に校友会と大学に近くなったような気持ちになりました。

協議事項1の役員改選で新沢会長が支部長を辞することを表明されたことから、後任に同期61年卒の町田巌氏を全会一致で新支部長に選出しました。さっそく新支部長町田氏の挨拶では次回総会を3年後町田氏の地元・上越市で開催することを表明され皆さん再会を誓いあいました。

その他特に協議事項なく小林議長が解任され、司会者五 十嵐氏が総会終了を宣言しました。

その後、全員で集合写真を撮影し、懇親会に移りまして 進行係は私、遠藤が勤めました。

開会挨拶は新支部長の町田氏が再度3年後の再会をお願いされ、その後前支部長新沢氏の乾杯で懇親会が始まりました。舌の回りが良くなりかけたころを見計らって、全員の自己紹介を始めましたが皆さん話好きでいらして、また

年齢の高いテーブルほど話が長くなり大変盛り上がってしまいまして、自己紹介が終ってあと30分しか残らず席を移動しての懇親には皆さん時間たらずのようでした。自己紹介のなかで議長を務めました小林氏が自ら出版したサボテンの本は現物を手に紹介されて注目を集めました。価格は15000円だそうです。興味のある方は直接連絡してください。(小千谷市 小林薬局 TEL 0258-82-2123) そんな短い時間でしたが懇親時のスナップ写真も撮り集合写真と一緒に皆さんにお届けしました。

ホテルの係の方から催促をされしょうがなく終了しなければと思い最後に用意しておいた日大節を新沢氏と元県薬会長宮氏の音頭で全員大合唱しました。

最後は宮氏にしめていただき盛会のうちに懇親会を終了 しました。

会長、副会長の列車の時間までしばらく別室にて二次会となりましたが、まだ話足りない方々は御両人が帰られてもまだ話し込んでおられましたが、ようやくにしてお開きとなったのは夕方5時ちょっと前でした。

会長、副会長様そして会員の皆様丸一日大変お疲れ様で した。また3年後上越に集合しましょう。

(文責:遠藤 弘)



薬学部ニュース

薬剤師国家試験合格率 全国2位

平成19年3月10,11日で行われた、第92回薬剤師国家試験は新卒者183名が受験し、178名が合格した。合格率97.27%で、新卒の合格率は九州保健福祉大学(97.50%)についで2位であった。全体でも87.07%で全国7位と好成績を残した。これは学生諸君の努力と先生方の御指導の賜物と言える。

8号館完成にあたって

平成18年度に6年制の薬学教育が開始され「臨床に係る 実践的な能力を培うことを主たる目的とする」という理念 のもとに、「薬剤師としての知識・技能」に加え「医療人 としての心」の涵養が目標とされております。それらの目 的を達成するための設備の1つとして薬学部8号館の建設が 計画され、竣工いたしました。講義室も備えています。4 月よりすでに授業が始まっております。これらを十二分に 活用し、大きな変革の時代を突き進んで行けるものと考え られます。



1階エントランスから吹き抜けを臨む

1F 実習室(臨床薬剤)、調剤実習室

2F モデル薬局、講義室

3F モデル薬局、講義室

建築延床面積 6428.65m² 鉄筋コンクリート造、設計・ 工事管理 日本大学本部管財部 設計協力 株式会社日建設計、施工 大成建設

6年制薬学教育に向けての 日本大学薬学部の取り組み

日本大学薬学部臨床医学ユニット教授(広報担当) 鈴木 孝 6年制薬学部の1年生が入学して、早、1年になろうとし

ています。前号(45号)の桜薬会会報で改築なりました食堂 及び自習室使用の2号館、新築なります(平成19年3月完 成) 講堂・模擬薬局などが整います8号館について書きま した。今回は、これらの施設を使って、この6年制教育に 学部としてどのように取り組んでいるか紹介したいと思い ます。まず、6年制の1年生に対しては、薬剤師や医療従事 者が働く現場を見学したり、体験を通してその理解を深め る早期体験実習が必修科目として開始されました。実習先 としては、介護施設、総合病院や大学付属病院、医薬品メ ーカー研究所、MR同行、成田空港検疫所、バイオテクノ ロジー施設など、多岐に渡っています。これは低学年で薬 学に対する視野を広げて、学習や研究に向かうモチベーシ ョンを高める目的で行われています。その後1~4年生の授 業は、薬学教育モデルコア・カリキュラムを基本に、アド バンス科目など独自の科目を加えた統合型(科目間の枠を 超えて複数の教員が基礎から専門へ) のカリキュラムが組 まれています。その後、5~6年生時に5ヵ月間の病院・薬 局実習に出かける訳ですが、皆さんもご存知のように、実 習は実際の薬局、病棟で行われる訳ですから、一定の知識 と技能が求められます。これが一般にいわれている「違法 性の阻却」が必要になってきます。このために、6年制で は4年時に共用試験が行われますが、これはこの「違法性の 阻却」を考慮してのものです。この試験は各学生の知識を 問うコンピューター (computer) を用いたCBT (computer based testing)、技能と態度を評価するOSCE (objective structured clinical examination: 客観的臨床能力試 験)から成り立っています。CBTに関しては、各大学の教 員がCBT用の問題を作成して、このプール問題を使って、 現在、4年制学生の3年生にトライアルが開始されていま す。当然、コンピューターを使い、各自の設問はランダム に与えられますので、問題は各自各様になります。また、 OSCEに関しても、病院・薬局実習に行く前の4年制の学 生にトライアルとして、本年度は、接遇、計数調剤、計量 調剤、処方監査の4つのステーションを設置して行いまし た。当然、綿密な打ち合わせのもとに、ほとんどの教員が 参加して、千葉県薬剤師会、他大学の教員の協力のもとに 行うことができました。



822講義室

更に、6年制薬学部では、5ヵ月の病院・薬局実習に行く 前に約5週間の実務事前実習が行われます。現4年制の3年 生に対して、薬事管理学ユニットが行っています医薬品情 報の収集・評価・提供、調剤報酬の算定、セルフメディケ ーション学ユニットが大衆薬や介護についての実習、ファ ーマシューティカル・コミュニケーション学ユニットが患 者の接遇、臨床医学ユニットが患者個々の病態を踏まえた 病態解析、処方箋解析などを実習して、病院薬学ユニット ではこれらの知識、技能を総合的に活用して模擬処方箋に よる調剤実習がこれに相当します。平成19年度には、前述 しましたように8号館が完成しますので、ここの3階に設置 されます待合室、処方箋受付、計数調剤室、計量調剤室、 医薬品情報室、2階に設置されます無菌調剤室、注射薬調 剤室、製剤室、病棟・診察室でこれらの実習が行われるよ うになります。このような施設を使って、より実践的な実 習をして5ヵ月の病院・薬局実習に付属病院、医学部関連 病院、調整機構指定の病院、薬局に出て行きます。現在、 これらの新しい施設が6年制学生により有効な実習を行う ための実践的な場になること目指して、教職員一同がんば っております。

薬学部公開講座

平成19年6月2日(土) 午後1時より

講師:女子栄養大学学長 香川芳子 先生

日本大学薬学部教員人事

教授発令 (07.4.1)

小川 吉夫 (分子細胞生物学、学内より) 山中 健三 (環境衛生学、学内より)

専任講師発令

(06.7.1)

泉澤 恵 (薬事管理学、東京薬科大学より)

(07.4.1)

濃沼 政美 (病院薬学、学内より)

担当発令 (07.4.1)

学系主任 (07.4.1)

医療薬学系 安川 憲教授 (セルフメディケーション学) 基礎薬学系 井口 法男教授 (微生物学) 教養系 山崎 良介教授 (ドイツ語学)

退職 (07.3.31)

渡邊 和子教授(分子細胞生物学、定年)

平成17年度 薬学部校友会研究奨励金研究報告

所属ユニット:分子細胞生物学 資格・氏名:助手・須田 篤博

研究課題:出芽酵母の胞子形成過程におけるアクチン系細 胞骨格の検討

配偶子形成は生命の連続性を維持する上での重要なイベ ントである。単細胞真核生物の酵母における配偶子は胞子 と呼ばれ、2倍体の母細胞が減数分裂を行なうことによっ て形成される。この胞子形成は、自身の細胞の中に新たな 細胞(胞子)を作り出すというダイナミックな過程である が、細胞運動に関与しているアクチン系細胞骨格の挙動や その役割については不明な点が多い。これまでの研究で、 我々は出芽酵母 Zygosaccharomyces rouxii の胞子形成過程 において、リング状のアクチン構造があることを明らかに している。このリング構造は、減数分裂が終了した後にお こる胞子の成熟過程において観察される。モデル生物であ る Saccharomyces cerevisiae は Z. rouxii と近縁の酵母である が、その胞子形成過程でリング状のアクチン構造はこれま で報告されていない。そこで、今回の研究では S. cerevisiae の胞子形成過程におけるアクチンについて検討を行い、こ のリング構造が出芽酵母の胞子形成過程で共通の構造であ るかどうかを検討した。

まず S. cerevisiae の2倍体細胞に対して胞子形成を誘導した際のアクチン構造を観察した。その結果、リング状のア

クチン構造の存在を示唆する構造が胞子の周縁に観察されたが、Z. rouxii におけるリング構造に比べると不明瞭であった。さらに検討を重ねるために、胞子形成の条件を変えて実験を行った。S. cerevisiae と Z. rouxii の二つの酵母の顕著な違いは、形成される胞子を包む胞子嚢にある。Z. rouxii は亜鈴型の胞子嚢を形成するのに対し、S. cerevisiae は球状の胞子嚢を形成する。そこで、S. cerevisiaeの胞子嚢を接合子型に誘導して観察してみたところ、より明確にリング構造を確認することができた。

以上の結果から、酵母の種類によってリングの見え方に 多少の違いがあるようであるが、このアクチンリングは両 酵母に共通の構造であることが明らかとなった。さらに、 まだ明らかにされていない Z. rouxii のアクチン遺伝子を解 析した結果、S. cerevisiae のアクチン遺伝子と比較して、 cDNA配列では90%、アミノ酸配列では98%の一致率であ り、高い相同性を示した。したがって、リング構造を形成 するアクチンの遺伝子的な要因も共通のものであることが 示唆された。

このアクチンリング構造の役割は不明であるが、今後さらに検討を重ね胞子形成過程におけるアクチン系細胞骨格の役割を明らかにしたいと考えている。

平成20年度日本大学薬学部入学試験期日及び科目等

	一般推薦入学試験 (一般公募)	一般入学試験	校友子女入学試験
	双地局八十武器(一双公务)	MX 八 子 武 為火	薬学部1年次
1募集人員	30夕.	115名	業学部 1 年次
1 宏 未 八 貝	30/1	113/1	5名(合格基準に達しない場合には、合格者数が募
			集人員に満たないこともあります)
2出願資格	本学部での学業を強く希望し、	日本大学入学試験要項に同じ	(1)大学入試資格を有し、本学への入学を第一希望とす
4 出 與 頁 俗	合格した場合、本学部に入学す	日本人子人子武衆安頃に回し	る者で、次のいずれかに該当する校友の子女(2親等
	ることを確約できる者で次のい		
	· ·		内直系血族)である者
	ずれかに該当し、出身学校長が		(ア)以下に示す,学校法人日本大学寄附行為施行 規則第8条に規定する「学校法人日本大学が設置
	推薦する者 ①高等学校もしくは中等教育学		
	校の普通科又は理数科を平成		する学校」を卒業または修了した者 「学校法人日本大学が設置する学校]
	20年3月卒業見込みの者で、		●日本法律学校●高等工学校及び工業専門学校●東
	高等学校第3学年第1学期まで		『三日本伝年子校●同寺エ子校及び工来寺门子校●末「洋歯科医学校及び歯科医学校●東京獣医学校●専門
	の全体の評定平均値が3.5以上		学校令による専門学校、専門部、高等師範部、高等
	の者		専攻科及び師範専修科●東京高等獣医学校及び東京
	②高等学校もしくは中等教育学		獣医畜産専門学校●専門学校令による大学●大学令
	校の普通科又は理数科を平成		による大学及び予科、大学院及び選科●学校教育法
	19年3月に卒業した者で、卒		(新学制) による大学, 大学院及び短期大学
	業時の全体の評定平均値が3.5		(イ)日本大学寄附行為施行規則第9条に定める推薦
	以上の者		(イ) 日本八子司的行為他行及則第5米に定める推薦 校友
			(ウ) 学校法人日本大学が設置する学校に勤務を有す
			る専任教職員または専任教職員であった者
			(エ)学校法人日本大学の役員または役員であった者
			(オ)学校法人日本大学の特別付属・準付属校を設
			置する法人に勤務を有する専任教職員または専任
			教職員であった者。ただし、特別付属・準付属校
			を設置する法人は、平成19年4月1日現在のも
			のとする
			②合格した場合、本学部に入学することを確約できる者
3出願書類	①推薦書	①入学志願票	①校友子女確認書
	(学校長推薦書・自己推薦書)	②出身高等学校調査書	②入学志願票
	②入学志願票		③出身学校調査書等
	③出身学校調査書		
4選考方法	0 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	学科試験(マークシート方式)	①書類選考
12 575 12	②面接	①理科:化学Ⅰ・化学Ⅱ	②面接
	③参考試験(マークシート方式)		③参考試験(マークシート方式)
	(1)化学 I · 化学 II (90分)		
	(2)英語 Ⅰ・Ⅱ・リーディング		(2)英語 I · II · リーディング
		ピュータを除く)	
		③外国語:英語I, Ⅱ, リー	
		ディング	
		理:60分,数:60分,	
		外:60分;各100点	
5出願期日	平成 19年11月1日(木)~9日(金)	平成20年1月8日(水)~28日(月)	平成19年11月1日(木)~9日(金)
6選 考 日	11月14日(水)	2月5日(火)	11月14日(水)
7 合格発表日	11月16日(金)	2月7日(木)	11月16日(金)
8 入学手続期間	11月19日(月)~11月30日(金)	2月8日(金)~18日(月)	11月19日(月)~11月30日(金)
9入学検定料	未 定	未 定	未 定
10試 験 会 場	日本大学薬学部校舎	東京,船橋,仙台,名古屋,福岡	日本大学薬学部校舎
11出 願 書 類	〒274-8555 千葉県船橋市		= 974 0555 工英旧邮桥十期十呎人2月1
送付先	習志野台7-7-1	1 科奶人种和 1.3.25 //ピガト	〒274-8555 千葉県船橋市習志野台 7-7-1
	日本大学薬学部	入試総合情報センター(仮称)	日本大学薬学部
	Tel 047-465-8480 (直通)		Tel 047-465-8480 (直通)
	推薦 7 学試験 R 方式 (草作 / 目60夕))) 11 H 14 H / l·) dt46	- 一プンキャンパス 7/28(十)

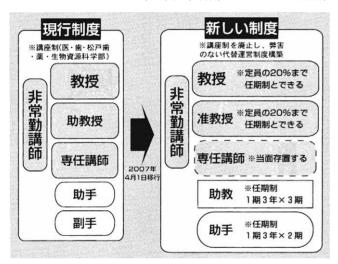
付属高等学校等推薦入学試験B方式 (募集人員60名) は、11月14日 (水) 実施 オープンキャンパス 7/28(土) 付属高等学校等推薦入学試験A方式 (募集人員30名) は、12月15日 (土) 実施 受験生のためのミニオープンキャンパス 8/22(水)

日本大学・日本大学校友会ニュース

新教員組織へ移行

学校教育法など関係法令の改正に伴う措置で、各教員の役割と連携をより明確にする目的で「新教員組織移行に関する基本方針」が旧年10月の理事会で承認されました。この制度は新学期からの施行される制度で「准教授」「助教」が新設されます。「准教授」は現在の助教授がそのまま移行し、「助教」は「全く新しい教員資格」として位置付けられています。副手は「助手」に統一され「教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事し、教授、准教授および助教とは職務が明確に異なる職」となりました。

(日本大学新聞06.11.20.より引用)



日大人と母校を結ぶコミュニケーション紙



『Kizuna絆』

創刊以来10年目の記念すべき第10号が発刊されました。年1回の発行ですがすべての卒業生に対する母校日本大学からの広報誌です。間もなくお手元に届くと思います。

4月末日になってもお手元に届か ない場合は薬学部校友会事務局まで お知らせ下さい。

本部校友会会報誌『桜縁』

日本大学校友会正会員への広報誌です。年2回発刊で正会員のお手元に配布されます。日本大学校友会は薬学部校友会の上部組織で学部校友会はその傘下組織となります。正会員は年会費10,000円を納めることが必要ですが、校友会主催行事の案内などを優先的に受けることが出来ます。

母校スポーツ好調

箱根駅伝 準優勝

箱根駅伝として知られる、お正月の恒例行事である東京 箱根間往復大学駅伝競走は83回目を迎えて大きな夢のお年 玉を私たちに配ってくれました。

ご存じのように箱根駅伝は上位10位までが翌年の出場権を得ますが、11位以下ですと予選会からの参加となります。そのような状況の中、我が母校は83回開催の中、78回の出場で12回の優勝をしています。残念ながらこの記録は中央大学に次いでの第2位です。今年は優勝して中央大学に迫ると期待していました。しかしノロウイルスは選手達にも猛威を現し、主力の2選手に大打撃を与えました。

花の精鋭はノロウイルスを撃破し、堂々の準優勝です。 往路は5位で終わりましたが、復路の第6区から快進撃でした。山下りのベテラン末吉 翔君(商4)は4回目の6区で 4年間の集大成を掛け、区間賞獲得です。母校にとっては 15年振りの区間賞となりました。また10区では阿久津尚二 君(文理3)が3位で襷を受けながら、第2位の東海大学アンカーを残り5キロで捉え、最後の1キロでかわし、15年振りの総合2位の座を獲得しました。

小川監督は「優勝したかった。しかし選手は良くたすきを繋いでくれた。この結果は次の代につながる」と話しておられます。今年のチームからは4年生が4名抜けますが、来年は34年振りの美酒を期待できそうです。期待して下さい。なお、応援募金寄附者には応援ガイドが届けられます。

第83回箱根駅伝振興特別委員会募金 募金者芳名 薬学部校友会募金合計 296,000円

青木 正忠	飯田 龍男	石井 幹男	石黒 文夫
井手口直子	伊藤 芳久	入船 智子	岩澤 忠廣
内倉 和雄	宇野 朋子	梅沢 芳史	大谷 幸子
小川 尚武	小川 吉夫	奥澤 文雄	奥山 靖子
小野 真一	川島 仁子	草間 國子	草間 貞
小林 郁夫	斉藤 文夫	斉藤 好廣	鈴木 孝
須田 篤博	関口 司馬	関根 忠行	瀬田 尚美
詫間 浩樹	田中 雪葉	塚原 正人	塚本 一道
手塚 雅勝	土井 正道	徳竹 伯夫	中村ひろみ
長沼 邑子	中山 義行	橋崎 要	原田 貞亮
東 英一	藤村 幹夫	前田 敏晴	松﨑 桂一
松田 卓也	宮城島侑也	本橋 重康	山崎 良介
山長みどり	山内 盛	吉田 郁夫	渡邊 和子

天皇杯第55回全日本選手権アマ横綱

旧年12月10日開かれた選手権で市原孝行君(経済4)が アマ横綱に輝いた。同君は昨年の大会では準優勝であった ので雪辱を果たしての優勝であり、国体成年Aでも優勝し ていたので2冠となった。大相撲初場所前に木瀬部屋に入 門し、幕下10枚目格で初土俵を踏み、3月場所は幕下東4 枚目に昇進しました。

また同学年の山本龍一君(経済4)と南貴由輝君(文理4)も尾上部屋に入門し、3月場所は序の口からの出発ですが活躍が期待されている。

薬学部乾杯!! 創部13年目の快挙 剣道部女子団体で優勝



昨年10月14日に第38回関東薬学生剣道大会を主管校と して迎えた薬学部剣道部に凱歌は揚がる。

平成6年、段の取得と友好のため創設された剣道部(顧問田口博之専任講師)は男子20名、女子14名の部員からなる小さな運動部ではありますが、活気あふれる中、大将松田萌香(3年)以下鷲塚弘奈(3年)、疋田 舞 (2年)、津坂仁美(1年)の4君は約半年の大会準備の忙しい合間を縫いながら稽古を続け、「花の精鋭」の技と気力で女子団体初優勝を遂げることが出来ました。

叙 勲

薬学部校友会元会長 高仲 正氏 (1957年卒) が旧年 11月3日 永年の保健衛生への功労に対して「瑞宝小授章」 を受賞されました。

同氏は1982年から92年までの間、薬学部校友会会長を務められましたが、本会創設以来 幹事として本会の発展に多大な寄与されました。また薬剤師国家試験委員を初めとする公的委員を数多く務められておられます。

カザルスホールでご一緒に唱いませんか!

OhMON CHOR (日本大学OB, OG合唱団) は日大卒業生中心の混声合唱団です。昨年10月4日千代田コーラスフェスティバルで、パイプオルガン伴奏でモリス・デュルフレのレクイエムからキリエ、モーツアルトのAve verum Corpusを合唱しました。カザルスホールの響きは素晴らしく、本当にハモルと自分達の音楽がステージに帰って来る、その響きの中にすっぽり入るという感動を味わいました。薬学OGの9名(2期~31期)も楽しく唱っています。

今年も9月23日(日)に桜門コーラスフェスティバル&ジョイントコンサートを開催します。指揮者に本学法学部卒で芸大声学科を卒業されご活躍中の藤丸崇浩先生、芸大声学科大学院生の増原先生をむかえ、第1日曜13時から、第3、4金曜日19時から理工学部(駿河台)9号館で岩河三郎作曲の「富山に伝わる三つの民謡」ほかを練習しています。若い頃、合唱にはまっていたOB、OGの皆様! 初めての方もご一緒に歌いませんか! ご連絡をお待ちしています。



2006.10.4 カザルスホールにて

TEL & FAX 047-465-7362

E-mail; kimura@pha.nihon-u.ac.jp (10期 木村由美子)

第5回日本大学 医療系同窓・校友学術講演会開かれる

平成18年9月30日(土)日本大学会館大講堂で『医療領域における最新の話題』をテーマに来賓として日本大学総長・理事長小嶋勝衛先生を迎え、151名(薬学40名)参会のもと学術講演会が開かれました。

今回は生物資源科学部獣医学科校友会が当番幹事を務めましたが、薬学部・医学部・歯学部・松戸歯学部の順で一巡しました。5年間の遅々とした「あゆみ」ですが、年々参加者が増え、二巡目には前記学部出身者以外にも声を掛けることになっており、ますます充実した学術講演会になると期待されています。縦割り分野の学術講演会は数多くありますが、4師(医師・歯科医師・獣医師・薬剤師)が揃う大学(571校のなかで)は他にはなく、分野横割りでこれからの医療に大きく貢献出来る学術講演会であると自負しながら各学部校友会は幹事を務めています。

第1演者はテレビでもお馴染みで「生きている人の為になる法医学」をライフワークとされている佐藤喜宣教授

(医学部75年卒:杏林大学医学部法医学教室)が「虐待症候群と臨床法医学の役割」についての講演があり、シェイキングベビーなどの話題が取り上げられました。

第2演者は「絶滅危機に瀕しているパンダを救えるか」とのテーマで渡部 敏教授(獣医学科62年卒:獣医学科獣医生化学研究室)が講演されました。パンダの親が初産時に授乳行為をしないため多くの産仔が死んでいる現状から、コンピュータ利用でパンダ用のミルカー、ティーカップを開発し、経過と成果が報告されました。

第3演者は「摂食・嚥下機能回復の新しい考え方」とのテーマで植田耕一郎教授(歯学部83年卒:歯学部摂食機能療法学講座)が講演された。付属病院摂食機能診療科の臨床データに基づいた講演で、介護保険にも導入された「高齢化社会における口腔機能向上サービス」について具体例を挙げながらの事例報告がなされました。

第4の演者は薬学部担当で「メタボリックシンドローム

の検査値と健康食品との係わり合い」の演題につき芝紀代 子教授(薬物63年卒:元東京医科歯科大学大学院臨床教授、 現文京学院大学保健医療技術学部教授)が講演をしました。 要旨は本誌にも書いていただきましたが、本学理工学部薬 学科を卒業以来、臨床検査を通じての実学の講演でありま した。

最後の演者は「真の歯周組織再生を目指して」との演題で小方頼昌教授(松歯部84年卒:松戸歯学部歯周治療学 講座)が経年と共に増加する歯周病とその組織の再生につ いて講演され、予防さらに咬合機能の回復などの話と共に 組織再生誘導法が高齢化社会に期待される医療分野の研究 であることが紹介されました。

講演終了後には会場を移して、懇親会が開かれ、さらなる計論がなされ、次回を約し散会しました。

第6回は薬学部校友会が当番幹事を務めます。本年9月 22日(土)14時から日本大学会館大講堂で開催します。

多数の参加をお待ちしております。薬剤師卒後研修シールの取得が出来ます。

日本赤十字救急法救急員養成講習

薬学部の全面的ご協力を得て、日本大学薬学部校友会主催で開催しております赤十字救急法救急員養成講習も今回で第5回目となり延べ129名が合格されています。

日本赤十字社救急養成講習を受講して

薬学部1年 内藤 桂子

今回の講習では、三角巾や包帯を使った応急処置の仕 方・心肺蘇生法・AEDの操作方法など、四日間という短 い時間の中で大変多くのことを学んだ。心肺蘇生法は今ま でにも何度かやったことはあったが、実際その場に居合わ せたら「絶対にできる」という程の自信はなく、AEDにつ いては見たことがあるくらいでほとんど知識がなかった。 止血法や包帯法は一般の人でもできるようなごく基本的な ものでしたが不器用な私にとっては少々難しく感じられた。 しかし、それ以上に傷病者への気づかいは難しかった。落 ち着いた環境ならばできることも、事故現場や傷病者を目 の前にした時の傷病者とのコミュニケーションの中でどれ だけ安心させられるか、負担を少なく応急処置ができるの か。それがとても重要であるということを学んだ。傷病者 発見のシュミレーションでは、指示を待ってしまうなど自 分から行動できない部分もあり反省点もいくつか残ってし まったが、多くの事を学ぶことができ、とても充実した四 日間だった。

この四日間で学んだことをこれからも生かしていきたい。

また、その場に居合わせた時、率先してできるようにしたいと思った。

今回このような機会を与えていただきありがとうござい ました。

赤十字救急法救急員認定証取得者

第5回講習会合格者(平成18年9月11日~14日開催)

学部1年 内藤桂子、曲山佳代子、芳川和輝

学部2年 穴倉龍彦

学部3年 麻布百合子、飯干祐美、伊澤一貴、岩野由貴、

梅原美紀、鶯塚弘奈、岡田淳吾、小川明男、 折井啓一郎、金井理恵、北村 祐、栗田 充、 小松由枝、逆井麻衣、鈴木展宏、末田みさと、

薛寿栄、西崎景子、八田加奈子

学部4年 三浦佳也

大学院1年 河邊宏之

大学院2年 藤本健太郎

教員 西川絵梨子

以上27名 (学年は平成18年度)



会合予告

薬学部校友会(通称 桜薬会)通常総会 並びに懇親会開催のお知らせ

平成19年度薬学部校友会通常総会並びに懇親会を下記により開催いたします。

多数ご参加下さいますようお願いいたします。

総会

日 時:平成19年6月23日(土)13時30分~14時30分

場 所:日本大学薬学部

総会終了後、薬学部食堂にて懇親会を開催いたします。 (15時00分~17時00分)

薬学部校友会幹事会開催のお知らせ

通常総会に向けて幹事会を下記日時により開催いたします。幹事の皆様にはご多用中とは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいますようお願いいたします。

日 時:平成19年6月1日(金)18時00分~20時00分

場 所:日本大学会館 701会議室

山形県支部総会開催

日 時: 平成19年5月26日

委細は校友会ホームページをご覧ください。

渡邊和子教授のご退任をお祝いする会の ご案内

陽春の候、会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申 し上げます。

さて、渡邊和子先生におかれましては平成19年3月31日 をもちまして定年によりご退職になりました。

先生は、昭和39年に本学理工学部薬学科を第9期生としてご卒業後、順天堂大学の助手として教育・研究生活を開始され、昭和42年には本学に戻られて、専任講師、助教授を経て昭和62年よりこの春にご定年を迎えられるまで教授としてご活躍になりました。この間、日本大学評議員、薬学部次長、広報担当をはじめ就職対策委員長、国家試験対策委員長などの要職を歴任され、学部の発展にご尽力されるとともに、多くの卒業生を送り出されました。私どもが今日あるのも渡邊先生の情熱と心からのご指導の賜物で、感謝の気持ちは言葉では言い尽くせないものがございます。先生の永年のご功績を讃え、そのご苦労に感謝の意を表し

たく、下記の通りご退任をお祝いする会を行うこととしま した。皆様お誘い合わせの上ご出席下さいますようご案内 申し上げます。

生物学研究室·分子細胞生物学研究室同窓会 発起人代表 小川 吉夫

記

日 時:平成19年7月14日(土)午後5時30分より

場 所:ヒルトン東京

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6丁目6番2号

電話: 03-3344-5111

会 費:1万5千円(記念品代を含む)

記念品代5千円(一口)(当日ご欠席でご送金下さる場合) 郵便振替口座「渡邊和子教授のご退任をお祝いする会」 口座番号 00100-4-557526

会費または記念品代のご送金は郵便振替にて平成19年6 月20日(水)までにお願い致します。

連絡先

日本大学薬学部分子細胞生物学ユニット

小川吉夫 E-メール:y-ogawa@pha.nihon-u.ac.jp 草間國子 E-メール:kusamak@pha.nihon-u.ac.jp 須田篤博 E-メール:sudaatsu@pha.nihon-u.ac.jp

電話:047-465-3740、047-465-3794

FAX: 047-465-3794

※「渡邊和子教授のご退任をお祝いする会」の案内状は 上記までご請求下さい。

※直接お振込みでお申し込み頂いても結構ですが、その場合は振込用紙にご卒業年、旧姓、出身教室(研究室、ユニット)名、もしくは現旧教・職員・大学関係者等の区別をお書き添えくださいますようお願い申し上げます。

第6回日本大学医療系同窓・校友学術講演会

日 時:平成19年9月22日 (土) 14時より開催予定場 所:日本大学会館 千代田区九段南4-8-24

テーマ: 「医療領域における最近の話題 |

受講料:1,000円

参加者には薬剤師シール2単位を差し上げます。

詳細はホームページに発表します。

会務報告

総務委員会 財務委員会 事業委員会 学内委員会 IT委員会 事務局

平成18年度 第2回 運営委員会議事録(案)

日 時:平成18年11月4日(土) 11:00~12:00 場 所:日本大学薬学部第2会議室 131号室

出席者:山内 盛(会長、4期)、渡邊和子(副会長 兼 総務委員会委員長、学内9期)、小林郁夫(副会長 兼 財務委員会委員長、10期)、高橋繁治(副会長 兼 学内委員会委員長、13期)、内倉和雄(副会長 兼 IT委員会委員長、学内14期)、草間 貞(財務 委員会副委員長、学内15期)、本橋重康(副会長 兼 事務局委員長、学内21期)、梅沢芳史(IT委員 会副委員長、25期)、鳥山正晴(事務局副委員長、学内30期)、小山 隆(監事、1期)、齋藤好廣(監事、18期)、小川 敦(監事、24期)、原田貞亮(常任幹事 兼 日本大学校友会と事、1期)、前田敏晴(常任幹事 兼 日本大学校友会役員、6期)、以上14名

【報告】

- 1. 事業委員会(小清水事業委員会委員長 代理 本橋事 務局委員長)
 - 1) 桜薬会報45号発行について

発行日 10月15日、発行部数 10,500部、発送8,819通、 学生会員には学内で配布したとの報告があった。

2) 第5回日本赤十字社救急員養成講習会について

応募人数28名、参加人数28名で9月11日~14日に薬学 部校舎で開催され、27名(1名AED講習)が試験に合格し たとの報告があった。

- 2. 学内委員会(高橋繁治学内委員会委員長)
 - 1) 第3回入会記念特別講演会「薬学の世界」について下記のとおり開催されたとの報告があった。

開催日時:5月13日(土)10:00~12:00

開催場所:薬学部6号館階段教室

出席者数:1年生204名

記念品(USBメモリー): 当日配布数204個、院生への配 布数38個

演題・演者:

1.「面白いよ、病院薬剤師は」

順天堂浦安病院薬剤科長 小清水敏昌(12期)

2. 「製薬企業における薬剤師の使命と期待」

佐藤製薬㈱OTC開発部長 郡司明彦(26期)

3. 「行政における薬剤師の仕事」

船橋保健所 荒川千佳(40期)

2) 薬学部スポーツ大会補助について

5月20日(土)に開催され、参加学生と教職員へ飲み物本数561本(金額56,100円)と、参加学生へ文具券484枚(金額242,000円)を配布したとの報告があった。

3)9月卒業生への記念品について

10月26日(木)の9月卒業生学位記伝達式において卒業記念品としてシステム手帳(数量28個)を贈呈したとの報

告があった。

4) 桜薬クイズについて

本日、薬学部校友会提供の「桜薬クイズ」を実施し、1~3位の3組6名に1位30,000円、2位20,000円、3位10,000円の奨学金を授与したが、昨年より参加人数が少なかったとの報告があった。また、桜薬祭参加の正会員、学生会員、特別会員に昼食券(500円)を配布しているとの報告もあった。

- 3. IT委員会(内倉和雄IT委員会委員長)
 - 1) HPの管理等について

就職情報、会報、卒後教育のレジメなどをリニューアルしたとの報告があった。

- 4. 財務委員会(小林郁夫財務委員会委員長)
 - 1) 会計帳簿に関し本部の会計科目に合わせた作業を開始 したとの報告があった。また、そのために会計ソフトの 購入、税理士と11月より顧問契約締結を結ぶとの報告も あった。
- 5. 事務局(本橋事務局委員長)
 - 1) 平成17年度総合講義試験問題発行・販売について 学部より依頼されていた問題部数500部を8月1日に発 行し、価格1部2,000円で販売中であるとの報告があった。 2) 会計ソフト導入について

品名 経理上手くんNL PRO II (公益法人編)、金額 210,000円を購入したとの報告があった。

3) 事務員の退職・採用について

下記の異動があったとの報告があった。 鹿子田道子さんの退職 (7月31日付け) 吉楽歩さんを新規採用 (9月5日付け)

勤務曜日 火、木、金

4) 税理士導入について

赤間寿彦税理士事務所と費用1万円/月で顧問契約を 結ぶとの報告があった。

- 6. 工科系校友会 (渡邊副会長)
 - 1) 幹事会について

7月19日、18:00より理工学部校友会室で開催された との報告があった。

2) 第24回工科系校友連絡会・第9回支部長会・懇親会に ついて

理工学部校友会が当番校友会となり8月26日に理工学部駿河台校舎で開催され連絡会には8名、支部長会には前記8名と青木千葉県支部長が出席したとの報告があった。なお懇親会には学部長代理として石井一清事務局長のご出席を頂いた。

- 7. 医療系同窓・校友連絡会 (山内会長)
 - 1) 学術講演会について

9月30日、参加人数151名(薬学40名)で開催され、

次期当番校友会(薬学部)の確認をして無事終了したとの報告があった。

8. 本部校友会について(川内会長)

- 1) 役員総会にて、平成19年度より日本大学校友会正会員 費を10,000円/年(現行8,000円/年)にすることが決定 したとの報告があった。
- 2) 箱根駅伝振興特別委員会が設立され、経済学部校友会 梅田会長を委員長とし、昨年までの各学部校友会割当 目標300,000円を無くして全て個人の寄付(2,000円/一 口)とするとの報告があった。また、募金小委員会へ 原田常任幹事、応援小委員会へ前田常任幹事、渉外小 委員会へ山内を推薦したとの報告があった。

9. その他

- 1) 事務局より9月卒業生への会費納入のお願いを10月26日の伝達式で渡邊副会長に行って貰ったとの報告があった。
- 2) 山内会長より10月9日に福井で開催された第2回全国 薬科大学・薬学部同窓会連絡協議会で①会則の作成 ②副会長交代(明薬大会長交代により新会長奥山氏に (任期残余期間)) ③会費各校友会10,000円/年 ④第 4回全国薬科大学・薬学部同窓会連絡協議会は明年10 月8日に、神戸で開催する。

その他、各校友会が発行している会報に広告を掲載しているかとの質疑があったが、本会では広告掲載の予定はないと回答したことの報告があった。

- 3) 事務局より11月29日に開催される第2回学部校友会有 志懇談会(幹事:法学部校友会。会場:赤坂陽光ホテ ル)への出席を山内会長、小清水副会長、高橋副会長 に依頼したとの報告があった。
- 4)会長より7期生同期会席上で会報45号(前号)の巻頭 記事は非常に勉強になったと大好評であったことが報 告された。

【審議】

- 1. 平成18年度第1回運営委員会議事録(案)に関する件 (渡邊副会長)【別紙1】
 - 一部文字修正の後、原案のとおり承認された。
- 2. 学内委員会 (高橋学内委員会委員長)
 - 1) 平成18年度卒業記念品の選定に関する件 平成18年度学位記伝達式(平成19年3月25日)で贈呈する卒業記念品は審議の結果、「ダヴィンチ システム手帳」にすることが決定した。
 - 2) 平成18年度桜薬会賞の選考に関する件本年度桜薬会賞の候補者として平成17年度桜薬祭実行委員長4年森田 肇君の提案があり、承認された。
- 3. 財務委員会 (小林財務委員会委員長)
 - 1) 国債購入に関する件

山内会長より余力のある資金で国債を購入し少しでも利息が得られるように検討して欲しいとの提案を調査・検討した結果について説明があった。薬学部校友会は法人に準ずるので国債購入可能なので利率0.5%/年を目標に購入することが承認された。

- 4. 医療系同窓・校友連絡会 (山内会長)
 - 1) 平成19年度当番校として日本大学会館で9月22日(土) に学術講演会を開催し、他の医療系関係者に参加を求めることを連絡会へ提案することが決定した。

5. その他

- 1) 学部校友会有志懇談会へ提出資料について(別紙資料) 大学院入学者の入会金未納の場合の取扱について加筆 の上、提出することを承認した。
- 2) 前納会費1万円徴収について

平成19年3月~平成23年10月の卒業生は平成14年度までの卒業生に比し、前納会費が1万円(5年分)減額になることから、差額を前納するよう要請することを了承した。なお平成24年3月卒業生(6年生1期生)からは前納会費積立が2万円になるので、この案件は期間限定となる。3)薬学部校友会設立周年記念行事について

1958年11月に設立された本会が2008年11月に満50周年を迎えるに付いての祝祭行事を開催することについての可否を問う提案が会長からあり、実施することと、詳細については事業委員会が検討することが承認された。4)交通費・諸会費の本会負担について

事務局へ送付を受けた諸会合に出席する場合は本会で交通費・諸会費を負担している。個人宅へ送付された諸会合については個人負担としてきたが、多くの場合、本会代表としての座席が用意されているが、この場合の取扱についての提案があり、審議の結果、当面は個人で出席し、会場に本会代表者としての座席が用意されて居る場合は、事後、事務局に状況を報告し、事務局の判断で決済することを了承した。

平成18年度第3回運営委員会開催日時・場所:

平成19年3月16日(金)18時~、日本大学会館204号室

平成18年度桜薬会賞受賞者決定

薬学部校友会桜薬会賞の受賞者は学内委員会の推薦により、第17回桜薬祭を成功裏に終了させた功績に対して、実行委員長として活躍した薬学科 森田 肇さんに決定した。3月25日挙行された薬学部学位記伝達式において山内会長より賞状と記念品が手渡された。

平成18年度薬学部校友会奨学生決定

薬学部校友会奨学生選考委員会により、高柳論也 (M2年)、鈴木慎一郎 (4年) さんの2名が決定し、さらに第11回教授会でも報告された。12月20日に開催された奨学生証書授与式で山内会長より奨学金が授与された。

平成19年薬学部校友会研究奨励金

薬学部校友会研究奨励金研究者選考委員会により、臨床 医学ユニット 助手 浅見 覚氏(35期)が薬学部校友会 研究奨励金研究者候補者として教授会へ推薦され、第14回 教授会において承認された。なお、平成19年度薬学部校友 会総会・懇親会において授与式を行う予定となっている。

[世界の医薬業界と我が薬学部]

『経験を生かして第二の人生をエンジョイしませんか』

いま、薬学部卒の仕事と問うたら回答は、

- ●製薬会社 MR. 研究室 ●病院薬局 ●調剤薬局
- ●医薬品一般販売業 ●ドラッグスーパー ●OTC薬局
- ●大学研究室(後輩の教育) ●公的機関

ぐらいでしょう。しかし他に我々の活躍する世界は有るのではないでしょうか? 特に社会に出て薬業界で活動した団塊の世代には現役時代の経験、知識、実績を求めている業界は多々有ると考えます。しかし現状では薬剤師の資格は引っ張りだこであるのは現実です。

志を同じくする同窓の力を結集して新たな我々の力で社 会に貢献する場を作り上げてみませんか?

例えば ●CRO ●原薬の輸入販売 ●外国製薬業者との 接点 (例えば 日本市場進出への足掛り (駐在事務所)、 DMF申請代行、市場調査、諸規制に関するガイダンス・ 指導、製剤のOEM 生産、ジェネリック原料供給、ドラッグスーパー 自社ブランドOTCをインドへOEM)

皆さんは東京ビッグサイトで開催される東京CPhI(国際医薬品原料・中間体展:4月18日~20日)を見たことがありますか。世界の医薬品市場に世界の目が向けられている事が分ります。特に、インド、中国の日本進出に眼を見張るものがあります。このままで行くと、世界の医薬品供給はインド及び中国を初めとする発展途上国の国々になりかねません。そのような現状を目にするとき、出来れば同窓の有志の集まりで第二の能力を発揮する場(初めは勉強会)を考えて見たいと思います。

皆さんの意見を求めています。

連絡先:発起人代表 原田貞亮(1期卒) E-mail: s_harada@ma.kitanet.ne.jp

会費納入報告

財務委員会

会費を納入いただきました会員の方々の名簿です。ご協力ありがとうございました。 誤りがございましたらお知らせ下さい。

(平成18年9月1日~平成19年2月28日)

会費納入者

●2,000円納入者

56 池田秀雄 57 虎溪恭代 58 伊勢忠,江口弘 59 角田律 62 小嶋雅子,矢崎和則 69 岸田邦雄 72 小原章 77 沖山 勝彦 79 柳典子 81 八束京子85 萩野良雄 86 大月久朗,渡部靖宏 91 萩野眞由美 06 夏目章江 以上17名

●4,000円納入者

78上田忠司,88 岡部賢悦

以上2名

●10.000円納入者

57 能登和男, 松浦美代子 58 田中和子 60 梅原延嘉 61

事務局からのお知らせ

ホームページ求人・ 求職のIDについて

日本大学薬学部校友会ホームページの求人・求職の コーナーに入るためにはIDとパスワードが必要です。

IDは宛名の下にある正会員番号の下6桁、パスワードは氏名(カタカナ)になります。ID・パスワードは毎年10月の末に一括更新しております。本年3月に卒業された方は、10月までは学生時のID・正会員のIDをお使いください。氏名の変更をお届けいただいた方は、10月までは旧氏名となります。

石塚起久子, 高野怜, 松島章浩 62 松島ミス子 65 太田健三 66 城之内マサ 71 小松稔 73 髙橋啓子 76 網仲幸男77 網仲英子 79 藤村幹夫,村田由美 81石川節子, 圓井正彦 82 飯田恵子, 佐々木朗子, 野田範子 83 別井匡世85 佐久間節子 86 土志田与志子 88 三輪洋美 91 水垣州子 93 渡邉香織 06 石井陽子, 橋﨑達也 以上29名

●20.000円

57 宮内トシ 83 石原貞美,山田孝志 85 小柳行良 06 中 矢泰民,安澤央杏衣,荒井紘子,遠藤匠,菅野友子,小泉慶太, 小栁奈津子,染谷智行,武川弘一,中村桃子,原沙耶香,吉田 聡 以上16名

会費納入のお願い

会員名簿資料に会費納入状況が印刷されています。 (会員番号に☆印のある方は未納です。)

会費は年額2,000円です。

事務簡素化のため5年分10,000円又は10年分20,000円を一括納入して頂ければ幸甚です。

平成19年度

通常総会・懇親会のお知らせ

日本大学薬学部校友会(通称 日本大学桜薬会)会則第11条に従い平成19年度通常総会・懇親 会を下記要領により開催いたします。

この総会は日本大学校友会の一翼を担う学部校友会として重要な行事です。ご多用中とは存じますが、万障御繰り合わせのうえ、ご出席下さるようお願いいたします。

総会後の懇親会席上、定年退職されました渡邊和子先生に記念品を贈呈し、長年のご指導に対し 皆で感謝の気持ちを表したいと考えております。

記

総会

日 時 平成19年6月23日(土)午後1時30分

場 所 日本大学薬学部 512教室

東葉高速線 船橋日大前駅下車 徒歩7分

議 題 第1号議案 平成18年度庶務報告・事業報告

決算報告及び監査報告

第2号議案 平成19年度事業計画・予算案

第3号議案 その他

懇親会 午後3時~5時

場 所 日本大学薬学部食堂(2号館2階)

会 費 ¥3,000 (当日会場で申し受けます)

総会終了後、3月に完成した8号館を見学します。

準備の都合がありますので 6月15日までに同封ハガキでご返信ください。

発行日 平成19年4月15日

編集人 日本大学薬学部校友会事業委員会

発行人 日本大学薬学部校友会 山内 盛

印刷所 協友印刷(株)

TEL 03 - 3267 - 8056

発行所 千葉県船橋市習志野台7-7-1

日本大学薬学部内(〒274-8555) 電話・FAX 047-465-1478(直通) e-mail: alumni@pha.nihon-u.ac.jp

振替口座番号 00140-0-53798 振替口座名 日本大学薬学部校友会